

科目区分	科目名	担当教員				配当年次	単位数		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	修了要件	ページ番号
							必修	選択							
専門共通科目	先端医学論※	古山達雄	平川栄一郎	奥田潤	樋本尚志	1前	2		○			◎	必修 10単位	1	
		多田達史	岡田仁												
	チーム医療特論※	多田達史	森田公美子			1後	2		○		◎			2	
	保健統計学特論	比江島欣愼				1前	2		○	◎				3	
	生命・医療倫理論※	植村裕子	岡田仁	大栗聖由	塩田敦子	1後	2	◎	○					4	
	英論文作成概論	南貴子				1前	2			◎		○		5	
	看護理論	近藤真紀子	小野美穂	岩本真紀	小林秋恵	1前	2		○	◎				必修 10単位	6
		森田公美子	岡西幸恵												
	看護と哲学	近藤真紀子	森田公美子	出村和彦		1後	2	○		◎				7	
	質的研究方法論	近藤真紀子	岩本真紀	岡田麻里	小林秋恵	1前	2		○	◎				8	
	量的研究方法論	比江島欣愼	片山陽子	竹内千夏		1前	2		○	◎				9	
	地域包括ケア特論	片山陽子	辻よしみ			1後	2				◎	○		10	
看護政策特論	井伊久美子				1後	2				○	◎	11			
看護教育学特論	小野美穂				1後	2		○	◎			12			
小計(12科目)							10	14							
専門領域	地域看護学	公衆衛生看護学特論	辻よしみ	佐々木純子	植原千明	1前	2		◎			○	必修 4単位	13	
		公衆衛生看護学演習	辻よしみ	佐々木純子	植原千明	1後	2			◎	○			14	
		小計(2科目)							4	0					
実践者養成コース専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	辻よしみ			1前	2		◎			○	必修 31単位	15	
		公衆衛生看護技術論Ⅰ	佐々木純子	辻よしみ	藤村保志花	1前	2		○	◎				16	
		公衆衛生看護技術論Ⅱ	佐々木純子	土岐弘美	藤村保志花	1前	2		○	◎				17	
		公衆衛生看護活動展開論Ⅰ	辻よしみ	佐々木純子	大野香織	1前	2			◎		○		18	
		公衆衛生看護活動展開論Ⅱ	佐々木純子			1前	2			◎		○		19	
		公衆衛生看護活動展開論Ⅲ	佐々木純子	奥田紀久子		1後	3			◎		○		20	
		公衆衛生看護管理論Ⅰ	辻よしみ	藤村保志花		1前	3			◎		○		21	
		公衆衛生看護管理論Ⅱ	佐々木純子	井伊久美子		1後	2				◎	○		22	
		保健医療福祉行政論	辻よしみ	井伊久美子	岡野由佳	大橋義弘	1前	2	○			◎		23	
		保健医療福祉行政論演習	植原千明	藤村保志花		1後	2			○		◎		24	
		疫学	佐々木純子	藤村保志花	横山勝教	1前	2			○	◎			25	
		保健統計学	植原千明	依田健志	横山勝教	藤川愛	1前	2		○	◎			26	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	辻よしみ	佐々木純子	藤村保志花	1後	2			◎	○			27	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	辻よしみ	佐々木純子	藤村保志花	1後	3			◎	○			28	
		小計(16科目)							31	0					
		共通科目	地域包括ケア実習	地域包括ケア実習Ⅰ	辻よしみ	佐々木純子	植原千明	藤村保志花	1後2前	4		○			◎
地域包括ケア実習Ⅱ	辻よしみ			佐々木純子	植原千明	藤村保志花	2通	2		○		◎	30		
小計(2科目)							6	0							
特別研究科目	課題研究Ⅰ	辻よしみ	佐々木純子	植原千明	片山陽子	1後	4		○	◎		必修 10単位	31		
		吉本知恵	近藤真紀子	則包和也	枝川千鶴子										
	課題研究Ⅱ	小野美穂	筒井邦彦	比江島欣愼	岩本真紀	2通	6		○	◎			32		
		小林秋恵	岡田麻里	土岐弘美	森田公美子										
小計(2科目)							10	0							
合計(34科目)							61	14					61単位		

ディプロマ・ポリシー(DP)

◎:非常に対応している ○:対応している

- DP1 責務遂行能力
- DP2 公衆衛生看護学実践能力
- DP3 課題探求解決能力
- DP4 連携・協働能力
- DP5 地域貢献能力

ディプロマ・ポリシーの詳細については、大学院ガイドで確認してください。

先端医学論 (Medical Frontiers in Health Sciences)											
必修・選択の区別	必修(臨床検査学) 選択(看護学)	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●奥田 潤 (OKUDA Jun)、古山 達雄 (FURUYAMA Tatsuo)、平川 栄一郎 (HIRAKAWA Eiichiro)、樋本 尚志 (HIMOTO Takashi)、多田 達史 (TADA Satoshi)、岡田 仁 (OKADA Hitoshi)										
授業の目的	近年、医学における技術の進歩は目覚ましいものがある。医療の現場に最新の技術が導入された場合、医療従事者として円滑に対応していく必要がある。本講では、注目されている先端医学のトピックス、導入に際しての課題、将来の展望などを学習し、医療現場において先進的医療にも対応できる資質を高めることを目標とする。										
到達目標	①最新医療に導入に際しての課題を倫理面も含め十分理解できる。 ②先端医学の将来の展望などについて考察できる。										
授業の進め方	各回、講義形式で授業を進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	総論①ガイダンス 岡田									
	2	総論②先端医学の歴史Ⅰ 岡田									
	3	総論③先端医学の歴史Ⅱ 岡田									
	4	総論④先端医学導入における対応Ⅰ 岡田									
	5	総論⑤先端医学導入における対応Ⅱ 岡田									
	6	各論①老化現象と老化抑制の最新知見Ⅰ 古山									
	7	各論②老化現象と老化抑制の最新知見Ⅱ 古山									
	8	各論③病原細菌の宿主細胞内生存戦略Ⅰ 奥田									
	9	各論④病原細菌の宿主細胞内生存戦略Ⅱ 奥田									
	10	各論⑤ゲノム診療用病理組織検体の取り扱い 平川									
	11	各論⑥分子標的薬に対するコンパニオン診断 平川									
	12	各論⑦ アポトーシスの評価方法とその問題点 樋本									
	13	各論⑧ オートファジーの評価方法とその問題点 樋本									
	14	各論⑨ リポタンパク機能と評価方法Ⅰ 多田									
	15	各論⑩ リポタンパク機能と評価方法Ⅱ 多田									
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布する。										
事前学習・事後学習	事前学習:各論では各回テーマを提示するので、該当テーマにの概要を把握しておく。 事後学習:各回の重要事項をその日の内に整理しておく。										
他の授業との関連	チーム医療特論、生命・医療倫理論										
成績評価方法・基準・フィードバック	担当教員が発表内容(プレゼンもしくはレポート)を評価し、それらの平均で評価する(100%)。評価基準は、到達目標に達しているか総合的に判定する。フィードバックは個別対応とする。										
オフィスアワー	随時受け付ける。研究室35(古山)、研究室41(平川)、研究室32(樋本)、研究室38(奥田)、研究室36(多田)、研究室45(岡田)										
備考	*実務経験がある教員:古山(医師)、平川(医師)、樋本(医師)、奥田(薬剤師)、多田(臨床検査技師)、岡田(医師)										

チーム医療特論 (Team Medicine and Practice)											
必修・選択の区別	必修(臨床検査学) 選択(看護学)	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担当教員	●多田 達史 (TADA Satashi)、森田 公美子 (MORITA Kumiko)										
授業の目的	信念対立を解消し、より建設的なコラボレーションや創造的な医療現場を作ることを目的に、超メタ理論としての構造構成主義の中核概念である関心相関性の原理を学修する。さらに、職種を超えたメンバーでのディスカッションを通して、専門分野に属する自分が考える価値の側面をいったん相対化することで、相手の考える価値を理解し、それを理解した上で(関心相関的視点に立って)、医療現場における信念対立を解消し、より妥当な判断を生み出していくことを具体的な事例を交え探求する。										
到達目標	① チーム医療でおきる信念対立の状況が理解できる。 ② 信念対立を説明する「信念対立説明アプローチ」の理論と技法を理解できる。 ③ 信念対立説明アプローチを職場や生活の場で適用できる。										
授業の進め方	講義、グループディスカッション、実践報告で授業を進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~2	1) 信念対立とは (多田・京極) 2) チーム医療と信念対立 3) 信念対立説明アプローチの理論的基盤と技法論的基盤 (多田・京極) 4) チーム医療で体験した信念対立と対処法について(グループディスカッション) (多田・森田) 5) 上記で話し合った内容を図・表などにまとめる 6) 本授業で学んだことや気づいたことを視点として、各自が実践し、その結果として現場がどのように変わったか、どのような難しさがあったかについて実践報告をする。(多田・森田) 7) まとめ (多田)									
	3~4										
	5~8										
	9~14										
	15										
教科書	資料を配布する										
参考書・参考資料等	医療関係者のための信念対立説明アプローチ:コミュニケーション・スキル入門(誠信書房、京極 真)										
事前学習・事後学習	医療現場で起きている信念対立又は生活の中で起きている信念対立に関心をもって授業に臨むこと。										
他の授業との関連	健康心理看護学特論を学修する際、臨床での問題解決につながる手法を学ぶことが可能。										
成績評価方法・基準・フィードバック	授業への参加態度(20%)及びプレゼンテーション・レポート等(80%)で総合的に評価する。フィードバックは個別対応とし、評価内容を説明する。										
オフィスアワー	適宜 研究室36(多田)、研究室8(森田)										
備考	1 集中講義とする。 2 前半を受講後に実践を行い、後半に実践報告を行う。 * 実務経験のある教員: 多田(臨床検査技師)、森田(看護師)										

保健統計学特論 (Advanced course of Biostatistics)											
必修・選択の区別	必修(公衆衛生看護学) 選択	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担当教員	比江島 欣慎 (HIEJIMA Yoshimitsu)										
授業の目的	本講義では、研究を計画し、データを収集・管理し、分析・考察し、結果を公表するために必要となる統計学(データサイエンス)的な基本知識および適切な手続きを学ぶ。特に講義の大半が割り当てられる分析・考察の部分では、統計的推定・検定の基本的な考え方や統計量が示す意味をコンピュータの力を借りて学修する。										
到達目標	①統計学における基本的な考え方を説明できる ②統計的考察に基づいた主張・判断ができる ③データに基づいた各種研究論文の理解等ができる ④データを介して真理を探究するプロセスを説明できる										
授業の進め方	①対面授業に参加し、ノートをとる ②①のノートとオンデマンド教材を使って復習する ③知識確認テストを受ける ④ノートを整理して提出する										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	データサイエンス的思考の基礎【講義】									
	2	データの尺度、データの入力方法【講義】									
	3	記述統計と推測統計【講義】									
	4	区間推定と検定の考え方【講義】									
	5	JMPのインストールと基本的な使い方【演習】									
	6	JMPを使ったデータ分析1(一変量の分布 -記述統計-)【講義・演習】									
	7	JMPを使ったデータ分析2(一変量の分布 -推測統計-)【講義・演習】									
	8	JMPを使ったデータ分析3(二変量の関係 -カイ2乗検定など-)【講義・演習】									
	9	JMPを使ったデータ分析4(二変量の関係 -分散分析など-)【講義・演習】									
	10	JMPを使ったデータ分析5(二変量の関係 -回帰分析など-)【講義・演習】									
	11	JMPを使ったデータ分析6(相関分析)【講義・演習】									
	12	JMPを使ったデータ分析7(重回帰分析など)【講義・演習】									
	13	JMPを使ったデータ分析8(因子分析など)【講義・演習】									
	14	総合演習									
	15	まとめ									
教科書	「ぜんぶ絵で見る医療統計」比江島欣慎(羊土社)										
参考書・参考資料等	適宜、必要な資料を配付する										
事前学習・事後学習	事前学習: 指定された資料を使って予習する 事後学習: 講義・演習の内容をノートに整理する										
他の授業との関連	各領域の特論・演習と特別研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	到達目標の達成状況を知識確認テスト(約10%)、演習課題(約10%)、期末試験もしくはレポート(約80%)で総合的に評価する 評価内容: 基本知識が身についているか、統計学的な思考ができているか フィードバック: 評価結果の確認、評価結果の確認期間を設けて対応する										
オフィスアワー	授業の前後、および研究室(要事前連絡)にて対応する										
備考											

生命・医療倫理論 (Health Care and Bioethics)											
必修・選択の区別	必修(助産学) 選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●植村 裕子 (UEMURA Yuko)、岡田 仁 (OKADA Hitoshi)、大栗 聖由 (OGURI Masayoshi)、塩田 敦子 (SHIOTA Atsuko)										
授業の目的	バイオサイエンスおよび医療に従事する研究者、高度専門職業人は、人権、生命倫理に十分な配慮を行いながら、医療を実践して行かなければならない。生命科学の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題、古くから解決の難しい医療倫理の問いについて、包括的あるいは個別に、基礎知識や基本的考え方を学ぶとともに実例により理解を深める。										
到達目標	①生命倫理の問題について広く概説できる。 ②それぞれの問題について理解を深め、自分なりの考え方を示すことができる。 ③実際の医療、研究の場面においてチームで議論するための基本的考え方や構えを身につける。										
授業の進め方	主に講義形式で授業を行うが、グループワーク、事前学習、プレゼンテーション、討議などの方式を用いながら、自ら考えることを中心に生命・医療倫理を身近に感じてもらう。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	人間とその尊厳(岡田)									
	2	新生児医療(岡田)									
	3	遺伝子・遺伝性疾患、遺伝カウンセリング 再生医療(岡田)									
	4	脳死と臓器移植(岡田)									
	5	救急医療、災害医療(岡田)									
	6	患者の権利とインフォームドコンセント、SDM(大栗)									
	7	ヒトを対象とする医学系研究に関する倫理指針 倫理委員会の役割(大栗)									
	8	生殖補助医療技術における子の出自を知る権利(南)									
	9	生命の始まりをめぐる倫理問題①(植村)									
	10	生命の始まりをめぐる倫理問題②(植村)									
	11	生殖補助医療、出生前診断・着床前診断、人工妊娠中絶(塩田)									
	12	実例に対する討議、レポート①(塩田)									
	13	実例に対する討議、レポート②(塩田)									
	14	実例に対する討議、レポート③(塩田)									
	15	実例に対する討議、レポート④(塩田)									
教科書	特に指定しない										
参考書・参考資料等	はじめて出会う生命倫理、玉井真理子、大谷いづみ 編、有斐閣 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 ガイダンス(最新版)										
事前学習・事後学習	事前学習：日頃から生命倫理に関するニュース、記事に興味をもってほしい。 事後学習：医療に携わり修士課程を修めるものとして生命倫理について自らの考えを述べられる。										
他の授業との関連	医療に携わり修士課程を修めるものとして、その専門分野が何であれ、生命倫理の基礎を学ぶことは大きな力となると考える。										
成績評価方法・基準・フィードバック	課題のプレゼンテーション、討議、レポートにより総合的に評価する。 1～5回30%、6～7回10%、9～10回10%、11～15回50%の評価配分とする。 評価の視点：担当教員が行う各担当項目に関する倫理的な考え方を中心としてプレゼンテーション、討議、レポートが行われているか評価する。 フィードバックは各担当教員ごとに時期を設定し行う。 *原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	植村(研究室31) 個別に対応する。以下のメールアドレスに要件を書いて事前に予約をとる。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	意見や質問を歓迎し、授業への積極的な参加を希望します。 *実務経験のある教員：植村(助産師)、塩田(医師)、岡田(医師)、大栗(臨床検査技師)										

英論文作成概論 (Introduction to the Creation of English Papers)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	●南 貴子(MINAMI Takako)										
授業の目的	医療系の英文の読解を通して、医療系英文のスタイルに慣れると同時に、英語論文作成において必要となる基本的英語力を養う。										
到達目標	医療従事者として養っておくべき英語力を高め、医療英語・英語論文作成に必要な基礎的知識を身につける。										
授業の進め方	毎回、担当者を決めて、文献の報告を行う。報告担当の回に無断欠席した場合は、単位を認めない。必要に応じて視聴覚教材を用いる。授業には、英語辞典を持参すること。 英文の正確な内容把握と語彙力の強化を図るため、定期的に小テストを行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	授業ガイダンス									
	2	Medical Topic 1									
	3	Medical Topic 2									
	4	Medical Topic 3									
	5	Medical Topic 4									
	6	Medical Topic 5									
	7	Medical Topic 6									
	8	Review 1									
	9	Medical Topic 7									
	10	Medical Topic 8									
	11	Medical Topic 9									
	12	Medical Topic 10									
	13	Medical Topic 11									
	14	Medical Topic 12									
	15	Review 2									
教科書	適宜指示する。										
参考書・参考資料等	適宜指示する。										
事前学習・事後学習	発表者以外の受講生も全員、毎回文献を読んでくることが前提となる。										
他の授業との関連	最低限の英語力は、大学院における研究の基礎となります。										
成績評価方法・基準・フィードバック	平常点80点、定期試験20点 原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価を受けられません。										
オフィスアワー	適宜対応(要事前予約)										
備考	不定期に課題を出します。「授業を欠席・遅刻したことにより課題提出について知らなかった」等は、提出を遅らせる理由として認められませんので、注意してください。 授業内容については授業の進行の都合上、若干変更する場合があります。										

看護理論(Nursing Theory and Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●近藤真紀子(Makiko KONDO), 小野美穂(Miho ONO), 岩本真紀(Maki IWAMOTO), 森田公美子(Kumiko MORI TA), 小林秋恵(Akie KOBAYASHI), 岡西幸恵(Sachie OKANISHI)										
授業の目的	実践における看護理論の必要性と活用方法について学ぶ。										
到達目標	①理論とは何かについて説明できる。 ②看護学において、理論がなぜ必要かについて説明できる。 ③理論の実践への応用について説明できる。 ④理論の生成・評価・検証について説明できる。 ⑤主要な理論について説明できる。 ⑥理論を実践の場でどのように活用でき、それによってどのような効果が期待できるのかを、具体的な事例を挙げて説明することができる。										
授業の進め方	課題1～3についてグループワークを行い、プレゼンテーション・ディスカッションを行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス									
	2	課題1～3の進め方:グループワーク									
	3	課題1(到達目標⑤):グループワーク(理論の選定)									
	4	課題1(到達目標⑤):グループワーク(選択した理論に関する学習)									
	5	課題1(到達目標⑤):グループワーク(プレゼンテーションの準備)									
	6	課題2(到達目標⑥):グループワーク(事例の選択)									
	7	課題2(到達目標⑥):グループワーク(事例の分析)									
	8	課題2(到達目標⑥):グループワーク(プレゼンテーションの準備)									
	9	課題3(到達目標①～④):グループワーク(理論とは何か、看護における理論の意義)									
	10	課題3(到達目標①～④):グループワーク(実践での理論の活用, 理論の生成・評価・検証)									
	11	課題3(到達目標①～④):グループワーク(プレゼンテーションの準備)									
	12	プレゼンテーション&ディスカッション:課題1									
	13	プレゼンテーション&ディスカッション:課題2									
	14	プレゼンテーション&ディスカッション:課題3									
	15	総括									
教科書	筒井真優美:看護理論の業績と理論評価, 医学書院.										
参考書・参考資料等	佐藤栄子著(2009):中範囲理論入門—事例を通して優しく学ぶ(日総研出版). 野川 道子著(2010):看護実践に活かす中範囲理論(メジカルフレンド社). Jacqueline Fawcett(原著)、太田喜久子(通訳)、(2008):フォーセット看護理論の分析と評価(医学書院).										
事前学習・事後学習	教科書・参考書に目を通し、理論の概要について事前学習を行う。 グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションを通して、各専門領域における実践や、各自の修士論文・課題研究に、理論がどのように関連するのかを熟考する。										
他の授業との関連	看護学特別研究、課題研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	グループワークへの貢献度(20%)、プレゼンテーションの完成度(50%)、最終レポート(30%)。 フィードバックは、各回のグループワーク時、プレゼンテーション後など、必要に応じてその都度行う。										
オフィスアワー	随時										
備考											

看護と哲学(Philosophy in Nursing Practice)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●近藤真紀子(KONDO Makiko), 森田公美子(MORITA Kumiko), 出村和彦(DEMURA Kazuhiko)、西村ユミ(NISHIMURA Yumi)										
授業の目的	看護学と哲学は、離れた存在に見える。しかし、医療の現場で起きる疑問や問いに対し、深く「考える」ためには、哲学的思索が必要である。看護実践における問いに対し、既成の概念や枠組みを棚上げした上で、根本的に問い考え捉えなおすことで、実践した看護の重要性や普遍性を再認識するとともに、新しい考え方や枠組みを創出することが可能になる。 本講では、これまでの哲学の流れを学修し、「人間は世界をどう認識しているのか」についての理解を深めるとともに、哲学の必要性を認識したエピソードを自己開示し、その問いに対する考えと根拠を示し、知識や価値観の体系化に挑戦する。										
到達目標	① 哲学の基本的事項が説明できる。 ② 哲学が、なぜ看護実践において必要か説明できる。 ③ 看護実践で体験したエピソードについて、何が起きているのか、何が問題なのかについて、根拠を示しながら哲学的に分析できる。 ④ 現象学と看護実践の関連について説明できる ⑤ ケアリングと看護哲学について説明できる										
授業の進め方	講義、グループディスカッション、実践報告で授業を進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1-5	I. 哲学の基礎 (出村・近藤)【講義・討議】 1. 哲学とは何か 2. 哲学はなぜ必要か 3. 哲学は宗教・科学・倫理・美学などどのように異なるのか 4. 哲学は何についてどのように思考するのか 5. 哲学における学問的な戦略(研究方法論など)はどのようなものか 6. 哲学が現代社会になぜ必要か 7. 哲学は医療に何をもたらすのか									
	6-10	II. 看護ケアの現象学 (西村)【講義・討議】									
	11-12	III. ケアリングと看護哲学 (近藤)【講義・討議】 1. Holism 2. Caring 3. Jean WatsonのTranspersonal caring									
	13-14	IV. 専門看護師とケアリング (森田)【講義・討議】									
	15	V. まとめ(近藤)【講義・討議】									
教科書	授業の中で提示する。										
参考書・参考資料等	講義の中で提示する										
事前学習・事後学習	医療現場で生じる疑問に関心をもって授業に臨むこと。										
他の授業との関連	チーム医療特論と関係し、専門領域科目と特別研究に発展する基礎的な科目である。										
成績評価方法・基準・フィードバック	評価方法は、レポート、授業でのプレゼンテーション、討論での発言内容とする。看護における現象に対して問いを立て、それに対して、思い込みを排除しつつ、筋道を立てて本質を深く探求しているかを評価基準とする。フィードバックは、全体あるいは個別に行う。										
オフィスアワー	適宜										
備考	1 集中講義とする。 2 後半に哲学の必要性を認識したエピソードを自己開示し、その問いに対する考えと根拠をプレゼンテーションする。 ※実務経験のある教員:近藤(看護師),森田(がん看護専門看護師)										

質的研究方法論 (Qualitative Approach for Nursing Study)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・討議・演習
担当教員	●近藤 真紀子 (KONDO Makiko)、岩本 真紀 (IWAMOTO Maki)、小林 秋恵 (KOBAYASHI Akie)、岡田 麻里 (OKADA Mari)										
授業の目的	質的帰納的研究手法を用いた論文のクリティーク、質的研究手法を用いた修士論文の取り組みを目指して、質的研究の基礎について探求する										
到達目標	① 研究・実践・理論の関係性について理解できる。 ② 研究の問いと研究デザインについて理解できる。 ③ 看護実践における質的研究の意義について理解できる。 ④ 質的研究の種類と学術的基盤について説明できる。 ⑤ 質的研究におけるデータ収集の方法について説明できる。 ⑥ 質的研究における分析方法について説明できる。 ⑦ 質的研究のクリティークについて説明できる。										
授業の進め方	学生のグループワーク、プレゼンテーションを中心に授業をすすめる。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～2	研究・実践・理論の関係性(岩本)【講義・演習】 看護実践における質的研究の意義(岩本)【講義・演習】 研究の問いと研究デザイン(岩本)【講義・演習】									
	3～4	質的研究の理論的基盤、量的研究との違い(岩本)【講義・演習】									
	5～6	質的研究における論文レビューとクリティーク(小林)【講義・演習】									
	7～8	質的研究におけるデータ収集と分析方法(岡田)【講義・演習】									
	9～10	質的研究の種類と学術的基盤(1)現象学的アプローチ(岡田)【講義・演習】 質的研究の種類と学術的基盤(2)グラウンデッド・セオリー・アプローチ(岩本)【講義・演習】									
	11～12	質的研究の種類と学術的基盤(3)エスノグラフィー(岡田)【講義・演習】									
	13～14	質的研究の種類と学術的基盤(4)その他の手法(質的記述的研究、KJ法など)(小林)【講義・演習】 質的研究のクリティーク(小林)【講義・演習】									
	15										
教科書	黒田裕子, 中木高夫, 逸見功監訳: パーンズ&グローブ看護研究入門 評価・統合・エビデンスの生成(エルゼビア・ジャパン株式会社)										
参考書・参考資料等	講義の中で紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習: シラバスや授業計画を確認し、該当部分について、学生同士の意見交換や討議ができるように準備しておく。 事後学習: 授業内容の復習をして、理解度を高める。										
他の授業との関連	特別研究と直結する。										
成績評価方法・基準・フィードバック	プレゼンテーションと意見交換(40%)、グループワークへの貢献と参加(30%)、クリティーク資料と発表(30%)。フィードバックは、プレゼンテーションに対して、その都度行う。										
オフィスアワー	在室時は、適宜対応する。 不在時は、メールなどにより日程調整を行う。										
備考	※実務経験のある教員: 近藤(看護師) 岩本(看護師) 小林(看護師) 岡田(看護師)										

量的研究方法論(Quantitative Approach for Nursing Study)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●比江島 欣慎(HIEJIMA Yoshimitsu)、片山 陽子(KATAYAMA Yoko)、竹内千夏(TAKEUCHI chinatsu)										
授業の目的	ライフサイエンスに関連する各分野において、集団を対象にしたデータ収集をとまなう研究は、エビデンスの導出など当該分野の発展において重要な役割を果たしている。本講義では、定量的データを介して真理を探究する研究(量的研究)の実施ために、研究計画、データ収集・管理、データ分析、結果の公表の各段階において必要となる手続き、疫学・統計学的知識、技術の修得を目指す。										
到達目標	①学問や科学について自分の立場や考えを論理的に説明できる ②データに基づいた因果推論の基本を説明できる ③各種研究デザインの特徴や違いを説明できる ④研究デザインに応じた統計指標の選択し、バイアスを考慮した指標の解釈ができる ⑤データを介して真理を探究するプロセスを実践できる										
授業の進め方	①対面授業に参加し、ノートをとる ②①のノートとオンデマンド教材を使って復習する ③知識確認テストを受ける ④ノートを整理して提出する										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	学問とは？科学とは？【講義・討論】									
	2	科学哲学・因果推論【講義】									
	3	因果推論とランダム化比較試験【講義】									
	4	観察研究のデザイン【講義】									
	5	研究デザインと分析方法【講義】									
	6	研究デザインと分析方法【演習】									
	7	バイアス【講義】									
	8	交絡への対処【講義】									
	9	因果推論を目的とした研究の進め方、論文の読み方【講義】									
	10	研究倫理【講義・討論】									
	11	論文講読1【演習・討論】									
	12	論文講読2【演習・討論】									
	13	尺度開発と因子分析【講義・演習】									
	14	総合演習									
	15	まとめ									
教科書	「ぜんぶ絵で見る医療統計」比江島欣慎(羊土社)										
参考書・参考資料等	適宜、必要な資料を配付する										
事前学習・事後学習	事前学習:指定された資料による予習、適宜教員が指示する準備を行う (第1回については、講義内で討論をするので、「学問とは?」、「科学とは?」、「真理とは?」について自分なりの考えをまとめておくこと) 事後学習:講義・演習・討論の内容をノートに整理する										
他の授業との関連	保健統計学特論(選択)との並行履修を強く望む 看護理論・質的研究方法論の既習内容および保健統計学特論とあわせて特別研究に活かすことのできる科目である										
成績評価方法・基準・フィードバック	到達目標の達成状況を知識確認テスト(約10%)、演習課題(約10%)、講義への参加状況やプレゼン・討議内容(40%)、期末試験もしくはレポート(約40%)で総合的に評価する 評価内容:基本知識が身についているか、科学的に真理を探究する思考ができているか フィードバック:評価結果の確認、疑問・申し立ての期間を設けて対応する										
オフィスアワー	授業の前後、および研究室(要事前連絡)にて対応する										
備考	※実務経験のある教員:片山(看護師) 竹内(看護師)										

地域包括ケア特論 (Advanced of Community based Comprehensive Care)											
必修・選択の区別	必修(実践者養成 コース) 選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●辻よしみ(TSUJI Yoshimi)、片山陽子(KATAYAMA Yoko)										
授業の目的	地域包括ケアが求められる社会情勢や法整備の状況を理解するとともに、現状の地域包括ケアシステムに対して、学生自身の立ち位置から見える課題を探究できる。										
到達目標	①保健・医療・福祉に関する政策の変遷とその背景について説明できる。 ②地域包括ケアシステムの概要と課題を説明できる。 ③保健・慰労・福祉の多職種連携と協働について考究できる。 ④対象者本人や家族が望む地域生活を遅れるために必要な看護マネジメントの意義を考究できる。										
授業の進め方	講義と演習・課題の発表と意見交換を行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~2 3~4 5~6 7~8 9~12 13~15	医療・保健・福祉を取り巻く制度の変遷と社会背景について(辻)【講義】 地域包括ケアシステムにおける病院、訪問看護ステーション、地域包括支援センターの役割と機能(片山)【講義】 地域包括的拠点を重視した看護マネジメントの意義(片山)【講義・演習】 保健・医療・福祉の多職種連携と協働の意義と課題(辻)【講義・演習】 地域包括的視点を重視した看護マネジメント事例検討、学生が事例提供(片山・辻)【演習】 地域包括ケアシステムから地域共生社会で果たす看護職の役割と課題事例検討(片山・辻)【演習】									
教科書	特に指定しない										
参考書・参考資料等	授業時に紹介する										
事前学習・事後学習	(事前学習)これまでの看護実践と交互が関連できるように、自己の実践を具体的に語れるように準備しておく、また、事例提供できるように準備しておく(事後学習)実践と講義を統合して自己の課題や探究する研究課題を整理する。										
他の授業との関連	自己の実践課題や研究課題と関連付け、各看護学特論・演習や看護学特別研究に反映させる。										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価は受けられません。 成績評価:課題のプレゼンテーション内容と参加度(50%)、課題レポート(50%)により総合的に評価する。 評価基準:討論への積極性、プレゼンテーション力、課題探究力 フィードバック:課題プレゼンは授業ごとにコメントを伝える。取り組みは最終講義で全過程を振り返るとともに疑問質問に対応する。課題レポートを評価しコメントを提示する。										
オフィスアワー	随時対応します										
備考	* 実務経験のある教員 片山(保健師・看護師)、辻(保健師・看護師)										

看護政策特論(Nursing Policy)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●井伊 久美子 (Ii Kumiko)										
授業の目的	看護制度と政策との関連を理解し、看護に求められる社会的責務と看護政策推進について探求する。										
到達目標	①看護にとっての政策課題とその変遷について理解する。 ②政策形成過程を理解し、その過程への参画について学ぶ。 ③看護政策実現の具体的な動きを知り、そのインパクトについて学ぶ。										
授業の進め方	講義及び課題についてのプレゼンテーションを行い、学生間及び教員との討論により学習を深める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~3	医療制度と看護制度の概観【講義】									
	4~6	看護政策課題の成り立ち【講義】									
	7~9	看護政策形成過程例の分析【講義・GW】									
	10~12	看護政策に係るプレーヤーとパワーゲーム【講義・GW】									
	13~15	看護政策の推進策【GW】									
教科書	「私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法」日本看護協会出版会										
参考書・参考資料等	随時紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習：関心のある看護政策課題について情報収集しておく。 事後学習：看護政策推進に関する自身の問題意識を整理し、考察を深める。										
他の授業との関連	地域包括ケア特論、チーム医療特論										
成績評価方法・基準・フィードバック	授業参加度(20%)、プレゼンテーション(30%)、期末レポート(50%) 原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ評価を受けられません。 評価については、疑問等受け付ける期間を設け、評価内容を説明する。										
オフィスアワー	在席時対応										
備考	※実務経験のある教員：井伊(保健師)										

看護教育学特論(Nursing Education)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・討論
担当教員	●小野 美穂(ONO Miho)										
授業の目的	看護専門職の継続教育およびキャリア開発に関する諸理論を理解し、看護学教育(基礎教育・継続教育)を展開する場で活用する能力を身につける。										
到達目標	①看護キャリア開発に関する考え方を理解し、自己及び他者のキャリア開発について検討できる。 ②看護実践能力の概念を理解し、能力開発の方法と評価について現状分析できる。 ③成人学習の原理について理解し、看護教育指導者としての支援方法について説明できる。 ④看護専門職のキャリア及び能力開発の考え方をもとに、看護学生や看護職者への教育体制や教育環境の在り方について考えを述べるができる。										
授業の進め方	講義および学生のプレゼンテーションと、それに基づく討論によって学習を深める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	看護学教育の歴史的編変遷と動向									
	2	看護継続教育の現状と課題:「日本と米国の比較」									
	3	仕事に必要な実践能力とは「実践能力の構造と実践知の獲得」									
	4	看護実践能力とは、様々な定義の検討									
	5	看護における臨床判断									
	6	臨床判断や実践の成長を支えるリフレクション									
	7	キャリア開発の概念									
	8	学習と指導に関する理論「学習意欲」「自尊感情」「自己効力感」									
	9	学習と指導に関する理論「役割理論」「組織社会化」「アサーティヴネス」									
	10	教育プログラムの構築方法、目標設定									
	11	学習形態、成人学習者が主体的に学ぶための原理									
	12	集合学習と実践での学習の組み立て									
	13	教育評価に関する考え方									
	14	看護実践の評価指標									
	15	看護実践の評価指標の開発方法									
教科書	特に使用しない										
参考書・参考資料等	授業内容に沿った文献資料を提示する										
事前学習・事後学習	事前学習:文献資料の授業に沿った該当部分を読んでおく 事後学習:授業での文献資料を読み直し、自分の経験を振り返り考えを明確にしておく。										
他の授業との関連	各自の研究課題と関連づけながら看護学教育の理解を深める										
成績評価方法・基準・フィードバック	<成績評価方法> ○授業参加度(30%:積極性、議論の充実と内容の深まり) ○期末レポート(70%:学習内容の理解度、論理一貫性、言語表現の適切性、文章のよみやすさ) <成績評価のフィードバック> 2月末までにコメントを入れて返却する。										
オフィスアワー	メールで質疑応答する。(hiraki@kagawa-puhs.ac.jp)										
備考	※実務経験のある教員:小野(看護師)										

公衆衛生看護学特論 (Advanced of Public Health Nursing)											
必修・選択の区別	選択 必修(公衆衛生看護学)	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●辻よしみ (TSUJI Yoshimi)、佐々木純子 (SASAKI Junko)、植原千明 (UEHARA Chiaki)										
授業の目的	公衆衛生看護の理念と活動を理解し、地域診断に関連するモデルや地域で生活する人々に対する科学的根拠に基づく多様な看護実践の方法論を学び、個人・家族・集団・地域の健康と自立を旨とする専門的実践のあり方を検討する。また、保健師の専門性を修得できる保健師教育の方法を探究する。										
到達目標	①地域の健康課題を解決するために用いる公衆衛生看護のモデルや理論を説明できる。 ②地域で生活する対象の自立を目指した専門的実践方法を検討できる。 ③保健師の役割や機能について検討できる。 ④地域の健康課題について文献等から系統的に整理し、課題解決に必要な方法を検討できる。										
授業の進め方	公衆衛生看護学のモデルや理論および公衆衛生看護学の教育課程を講義する。また、学生の研究課題に即して、必要なテーマについて教授するとともに課題の理論的背景を学生が整理する。その後、教員から出された課題についてプレゼンテーションを行い学生間の討議をする。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~2	変動する社会情勢の中で求められる公衆衛生看護の課題と役割(特別講師)【講義】 公衆衛生看護の基盤とする地域診断モデルと関連モデル【講義】									
	3~4	ヘルスプロモーションの歴史的・哲学的・理論的視点(辻)【講義】 公衆衛生看護の歴史から見出す保健師に求められる実践能力(辻)【講義】									
	5~6	保健師のコンピテンシー、保健師の活動指針(辻)【講義】 保健師機能と役割【講義、討議】									
	7~8	公衆衛生看護における今日的課題①(辻・佐々木・植原)【講義、討議】 公衆衛生看護における今日的課題②(辻・佐々木・植原)【講義、討議】									
	9~10	文献レビューと探求課題の検討(辻・佐々木・植原)【プレゼン・討議】 文献レビューと探求課題の検討(辻・佐々木・植原)【プレゼン・討議】									
	11~12	CQとRQ・課題の明確化(辻・佐々木・植原)【プレゼン・討議】 設定課題のプレゼンテーション(辻・佐々木・植原)【プレゼン・討議】									
	13~14 15	まとめ(辻・佐々木・植原)【演習・発表】									
教科書	金川克子・早川和生監訳:コミュニティアズパートナーモデル 地域看護学の理論と実際(医学書院) 神馬征峰訳:実践ヘルスプロモーション PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価(医学書院) 宮本ふみ:無名の語り(医学書院)										
参考書・参考資料等	適宜紹介する										
事前学習・事後学習	公衆衛生看護の理念や基盤となる理論やモデルを復習しておく。 毎回の講義と自己の研究課題とを照らし合わせて、さらに探求しておく自己の課題を明確にする。										
他の授業との関連	公衆衛生看護学演習、看護学特別研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ評価を受けられません。 評価方法:授業への主体的参加を重視し討議素材の準備(40%)、レポートの成果(60%)を統合して評価する。 評価基準:知識、課題発見力、論理的思考力、討議への主体的参加度 フィードバック:各授業の終わりに課題を整理するとともに疑問点について対応する。最終講義において全過程を振り返り、疑問等に応える。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	*実務経験のある教員 辻(保健師)、佐々木(保健師)、植原(保健師)										

公衆衛生看護学演習 (Seminer in Public health Nursing)											
必修・選択の区別	選択 必修(公衆衛生看護学)	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	●辻よしみ (TSUJI Yoshii)、佐々木純子 (SASAKI Junko)、植原千明 (UEHARA Chiaki)										
授業の目的	地域診断や個別事例から地域の健康課題をアセスメントし、地域住民の健康と自立を目指す保健計画の立案など地域における看護実践能力や方策について探求するとともに、演習を通して研究課題を見出し、研究計画書を作成する。										
到達目標	①日頃の地域活動における疑問や気づきから健康課題を理論に基づき抽出し考察できる。 ②取り上げた地域の健康課題やそれに対応した公衆衛生看護活動に関する文献をレビューする。 ③取り上げた地域の健康課題を解決するために必要な研究方法の選択ができる。 ④文献レビューにより絞られた研究課題に応じた研究計画書を作成できる。										
授業の進め方	公衆衛生看護学の基本的な方法論を活用して、対象地域のアセスメントを行い抽出された健康課題、健康課題から絞られた研究課題や研究計画についてプレゼンテーションし討議する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~2	地域(各担当フィールド)のコミュニティ・アセスメントする【講義】(辻・佐々木・植原・横溝)									
	3~4	コミュニティアセスメントによる健康課題の発表と討議【演習】(辻・佐々木・植原)									
	5~6	個別事例からみた地域の健康課題の発表と討議【演習】(辻・佐々木・植原)									
	7~8	地域の課題や個別事例から自己の研究課題を絞る【演習】(辻・佐々木・植原)									
	9~10	研究課題に基づく文献レビューについて討議する【演習】(辻・佐々木・植原)									
	11~12	研究課題に対応した研究方法を検討する【演習】(辻・佐々木・植原)									
	13~15	研究計画書を立案し発表する【演習】(辻・佐々木・植原)									
教科書	金川克子・早川和生監訳:コミュニティズパートナーモデル 地域看護学の理論と実際(医学書院) 神馬征峰、実践ヘルスプロモーション PRECEDE-PROCEEDモデルによる企画と評価(医学書院)										
参考書・参考資料等	適宜 参考図書・文献を紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習:地域情報や自己の活動における課題を整理しておく。事後学習:研究計画書に向けて課題を明確にし、現実的に妥当な研究計画に仕上げていくように、自己の課題を整理し取り組む。										
他の授業との関連	特別研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価は受けられません。授業への主体的参加を重視し、討議資料の準備(20%)、課題達成状況(20%)、研究計画書(60%)を総合的に評価する。各授業の終わりに課題を整理するとともに疑問点について対応する。フィードバック:実習最終において全過程を振り返り、フィードバックを実施し疑問等に応える。										
オフィスアワー	随時対応する										
備考	*実務経験のある教員 辻(保健師)、佐々木(保健師)、植原(保健師)										

公衆衛生看護学概論 (Introduction to Public health Nursing)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●辻よしみ (TSUJI Yoshimi)										
授業の目的	公衆衛生看護の歴史的発展過程や公衆衛生看護学の意義や基盤となる理念や概念及び活動の基本的考え方を理解する。										
到達目標	①公衆衛生看護学の基盤となる理念と概念を説明できる。 ②公衆衛生看護の対象が生活者であることを説明できる。 ③公衆衛生看護の活動の場と役割を具体的に述べられる。 ④公衆衛生看護活動の方法と倫理的問題を考察できる。 ⑤公衆衛生看護が時代と共に変化した過程を概観し、公衆衛生看護の意義を考察できる。										
授業の進め方	①講義及び学生のプレゼンテーションと、それに基づく討論によって学習を深める。 ②個人ワークとグループワークにより公衆衛生看護の専門性と活動の特徴を理解し深める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～2	本科目の必要性と意義、個々の学修目標と保健師への指向性を確認する【講義】:辻									
	3～4	我が国の公衆衛生看護の変遷と時代背景【講義・演習】:辻									
	5～6	公衆衛生看護の基盤となる理念と概念【講義】:辻									
	7～8	社会的環境と健康(健康と自然、文化、社会的要因)【講義・演習】:辻									
	9～10	公衆衛生看護の中心的概念(健康、地域、生活、予防)【講義・演習】:辻									
	11～12	公衆衛生看護活動の対象(個人、家族、集団、組織、地域)【講義・演習】:辻									
	13～14	公衆衛生看護活動の展開(計画、実施、評価)【講義・演習】:辻									
	15	国際協力と公衆衛生看護(海外の公衆衛生看護)【講義・演習】:辻									
		公衆衛生看護と倫理【講義・演習】:辻									
教科書	標準保健師講座 I 公衆衛生看護学概論(医学書院) 国民衛生の動向(厚生労働統計協会)										
参考書・参考資料等	最新 保健学講座1 公衆衛生看護学概論(メヂカルフレンド社)										
事前学習・事後学習	事前:既習の「公衆衛生」について復習しておく。自己の生活に関心を持つと共に、健康や「地域で生活する」ことの意味について学習し、地域全体が対象であるという視点を持ち講義に臨む。 事後:講義内容を復習し整理しておく。										
他の授業との関連	公衆衛生看護学の科目、保健医療福祉行政論										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4の出席がなければ評価を受けられません。 定期試験60%、レポート30%及び授業参加姿勢10%により総合的に評価する。 フィードバック:プレゼンテーションについてはコメントによるフィードバックする。 最終講義で全過程を振り返り疑問質問を受ける。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	*実務経験のある教員 辻(保健師)										

公衆衛生看護技術論 I (Public health Nursing Skills I (Home Visiting))											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●佐々木純子(SASAKI Junko)、藤村保志花FUJIMURA hoshika)、辻よしみ(TSUJI Yoshimi)、										
授業の目的	対象者自ら、生涯にわたるセルフケア能力を高めるために必要な個別の対人支援技術を習得し、個別支援における効果的な支援方法や倫理的配慮について考察できる。										
到達目標	①個人・家族を対象とした個別支援技術の基礎となる理論やモデルを理解できる。 ②個人・家族を対象とした保健指導(健康相談、家庭訪問)の基本的技術を身に付ける。 ③個人・家族を対象とした個別支援技術を用いる際の効果的方法や倫理的配慮について検討できる。										
授業の進め方	講義と演習を組み合わせる。演習では、教員により支援技術をプレゼンテーションし、学生間でロールプレイを行い、技術チェックを受けて確かな個別支援技術を身に付ける。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～2	公衆衛生看護における機能と技術、個人・家族を対象とした個別支援技術の基礎となる理論、モデルを理解する(ヘルスビリーフモデル、行動変容ステージ、自己効力感等)(佐々木)【講義】									
	3～4	健康相談と家庭訪問の目的、方法、特徴と対象に応じた計画立案、支援方法、公衆衛生看護における記録(佐々木)【講義・演習】									
	5～6	健康相談事例を用いた支援方法の検討(佐々木)【講義、演習】 (行動変容が求められる事例)									
	7～8	家庭訪問事例の訪問計画立案、適切な支援方法(藤村・佐々木)【講義・演習】 (家族支援が必要な事例)									
	9～10	乳幼児のいる家庭訪問事例のデモンストレーション(藤村・佐々木)【演習】 乳幼児のいる家庭訪問事例のロールプレイ、技術チェック、自己の支援技術の評価(藤村・佐々木・辻)【演習】									
	11～14 15	乳幼児のいる家庭の訪問事例で直面する倫理的問題の検討(佐々木・藤村)【演習】									
教科書	標準保健師講座2 公衆衛生看護技術(医学書院)										
参考書・参考資料等	最新保健学講座2 公衆衛生看護支援技術(メヂカルフレンド社)										
事前学習・事後学習	事前:ライフサイクル別の健康課題や乳幼児の成長・発達に関して自己学習して臨む。確かな発育発達の観察技術を身に付けるために事後学習を行う。既習の臨床倫理・看護倫理について学習して参加する。 事後:講義内容を復習し整理しておく。										
他の授業との関連	公衆衛生看護学実習 I、II、地域包括ケア実習 I と連動する。技術論 I における家庭訪問場面での技術チェック(試験)の合格を、公衆衛生看護学実習 I、II の履修要件とする。										
成績評価方法・基準・フィードバック	成績の評価には授業時間の2/3以上の出席を必要とする。技術チェックの成績50%、演習・課題・レポート40%、講義・演習への授業参加姿勢10%で総合的に評価する。最終講義で全過程を振り返り質問を受ける。										
オフィスアワー	随時対応する										
備考	※実務経験のある教員 佐々木(保健師)、藤村(保健師)、辻(保健師)										

公衆衛生看護技術論Ⅱ (Public health Nursing Skills1Ⅱ (Health Education))											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●佐々木純子(SASAKI Junko)、土岐弘美(TOKI Hiroimi)、藤村保志花(HUJIMURA Hoshika)										
授業の目的	集団を対象とした活動の基本となる理念、理論、方法論を学び、個別の健康課題を集団、組織、地域へと発展させる技術を理解し、保健師の専門性、役割を考察する。										
到達目標	① 集団、組織、地域を対象とする活動の基本的な理念・理論・方法論を説明できる。 ② 集団を対象とした支援技術である健康教育の方法を理解し実践できる。 ③ コンサルテーションの定義や実際を説明できる。 ④ 個別支援から地域支援につなげるグループ支援や地域組織活動支援を考察できる。										
授業の進め方	講義と演習を組み合わせる。既習の健康保健行動理論を活用し、健康教育の企画書、指導案、媒体を作成し、健康教育を実施する。 地域組織活動の支援と実際について特別講義、事例演習を実施し、公衆衛生看護活動をイメージできるようにする。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	健康教育の定義・理念、目的(藤村・佐々木)【講義】									
	2	健康教育の理論、方法と媒体(藤村・佐々木)【講義】									
	3～4	健康教育の企画、実施と評価(藤村・佐々木)【講義・演習】									
	5～6	健康教育の企画書、指導案、媒体作成(藤村・佐々木)【演習】									
	7～8	健康教育の実際と評価(藤村・佐々木)【プレゼンテーション】									
	9～11	コンサルテーションの定義・理論(土岐)【講義・演習】									
	12～13 14～15	グループ支援・組織化、地域組織活動の支援と実際(特別講義)【講義・演習】 地域組織活動支援の展開(藤村・佐々木・特別講師)【事例演習】									
教科書	標準保健師講座2 公衆衛生看護技術(医学書院)										
参考書・参考資料等	適宜、紹介する。										
事前学習・事後学習	事前:既習の健康保健行動理論を復習しておく。 事後:公衆衛生看護学実習Ⅱの健康教育等、今後の実習にて集団支援の実践につなげる。										
他の授業との関連	公衆衛生看護技術論Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ、地域包括ケア実習Ⅰ										
成績評価方法・基準・フィードバック	媒体作成(20%)、ディスカッションへの参加度(20%)、プレゼンテーション(30%)、演習課題・レポート(30%)を総合的に評価する。 最終講義で全過程を振り返り質問を受ける。										
オフィスアワー	随時受け付ける。										
備考	※実務経験のある教員 佐々木(保健師)、土岐(看護師)、藤村(保健師)										

公衆衛生看護活動展開論 I (Public health Nursing Implementation I (Lifecycle))											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●辻よしみ (TSUJI Yoshimi), 佐々木純子 (SASAKI Junko), 大野香織 (OONO Kaori)										
授業の目的	公衆衛生看護の対象を生活者と捉え、ライフステージに応じた看護を継続的に提供する意義と支援方法を学ぶ。										
到達目標	①ライフステージ別に応じた公衆衛生看護活動の動向と課題を説明できる。 ②対象者の特徴と健康課題を踏まえた支援、地域のサポートシステム・社会資源について説明できる。 ③母子保健活動では、乳幼児と家族の健康課題を捉えられ支援方法を説明できる。 ④成人保健活動では、健康診査結果からの活動展開を説明できる。 ⑤高齢者保健活動では、介護予防活動の方法と活動展開を説明できる。										
授業の進め方	講義により基礎的知識を理解する。さらに、事例演習により自己及び他者の考え・アセスメントを認識し、対象にとってのより良い支援方法や活動展開についてディスカッションを行う。これらの一連の学習により公衆衛生看護活動をイメージできるようにする。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～2	母性各期の課題と母子保健活動【講義】: 辻									
	3～4	乳幼児期の成長・発達と健康課題への支援【講義・演習】: 大野・辻									
	5～6	ハイリスクの母子の対象者への支援とサポートシステム・社会資源【事例演習】: 辻									
	7～8	成人期の課題と成人保健活動【講義】: 佐々木									
	9～11	生活習慣病予防の活動展開(個別支援からグループ化、組織化)【事例演習】: 佐々木									
	12～13	高齢者保健活動における介護予防活動と地域包括ケアシステム【事例演習】: 佐々木									
	14～15	ライフステージ及び健康レベル別の地域包括ケアシステムの在り方【プレゼンテーション・討議】: 辻・佐々木									
教科書	標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(医学書院)										
参考書・参考資料等	最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論 ライフステージの特性と保健活動(メヂカルフレンド社)										
事前学習・事後学習	事前: 居住する自治体の広報を入手し、住民へ提供する健康情報を把握していく。 健康や健康政策に関する新聞や雑誌の記事に興味関心を持って理解しておく。 事後: 講義内容を復習し整理しておく。										
他の授業との関連	公衆衛生看護活動展開論Ⅱ、Ⅲ 公衆衛生看護学実習										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価を受けられません。 レポート60%、プレゼンテーション20%、講義・演習への参加姿勢20%、総合的に評価する。 フィードバック: 最終講義で全過程を振り返りフィードバックを行い、必要時に個別で質問を受ける。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	※実務経験のある教員 辻(保健師)、佐々木(保健師)										

公衆衛生看護活動展開論Ⅱ (Public health Nursing Implementation II (Health Issues))											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●佐々木純子 (SASAKI Junko)										
授業の目的	地域で生活する個人・家族・集団の健康課題に応じた課題解決能力を高める支援方法と意義を学ぶ。										
到達目標	①健康課題別公衆衛生看護活動の特性と動向を説明できる。 ②対象者の特徴と健康課題を踏まえた支援方法を説明できる。 ③健康課題に応じたサポートシステムや社会資源について説明できる。 ④健康課題を抱えた個人・家族のニーズから集団・地域への支援や施策化への展開過程を探究できる。										
授業の進め方	講義により基礎的知識の理解を深め、グループワークによりディスカッションし自己の考えと他者の考えを検討し重要事項を共通認識する。 さらに、事例演習により公衆衛生看護活動をイメージできるようにする。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	精神障害者や障害児の特性と保健医療福祉の動向(佐々木)【講義】									
	2~3	精神障害者や障害児の生活と支援(佐々木)【講義・演習】									
	4~5	難病対策の動向と支援の変遷(佐々木)【講義】									
	6~7	難病患者への支援・保健活動と地域ケアシステム(佐々木)【講義・演習】									
	8~9	感染症対策の理念と対策の変遷(佐々木)【講義】									
	10~11	感染症予防と保健師の活動(新型感染症、結核管理システム、予防接種)(佐々木)【講義・演習】									
	12~15	個別のニーズから集団・地域への展開過程(佐々木)【講義・事例演習】									
教科書	標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(医学書院)										
参考書・参考資料等	最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論 心身の健康問題と保健活動(メヂカルフレンド社)										
事前学習・事後学習	事前:精神障害者・障害児や難病、感染症といった健康課題をもつ人々に関連する新聞記事を収集し熟読しておく。学習予定の教科書の範囲を熟読しておく。 事後:講義内容を復習し整理しておく。										
他の授業との関連	保健医療福祉行政論 公衆衛生看護活動展開論Ⅰ										
成績評価方法・基準・フィードバック	成績の評価には2/3以上の出席を必要とする。レポート70%、講義・プレゼンテーション等への参加姿勢30%で総合的に評価する。随時質問には対応する、また最終講義で全過程を振り返り質問を受ける。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	※実務経験のある教員 佐々木(保健師)										

公衆衛生看護活動展開論Ⅲ (Public health Nursing ImplementationⅢ (Occupational Health & School Health))											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	後期	単位数	3.0	時間数	45	授業形態	講義
担当教員	●佐々木純子(SASAKI Junko)、奥田紀久子(OKUDA Kikuko)										
授業の目的	産業保健、学校保健分野の活動の場における公衆衛生看護活動を学ぶとともに地域保健と連携して健康課題を取り組む意義と手法について学ぶ。										
到達目標	①産業保健の目的・意義・対象・支援方法を理解し、産業保健における今日的健康課題及び労働と健康の調和のとれた生活の支援を考察できる。 ②学校保健の目的・意義・対象・支援方法を理解し、学校保健における今日的健康課題及び児童生徒ならびに教職員との関り支援を考察できる。 ③産業保健および学校保健と地域保健との連携の必要性和方法を探究できる。										
授業の進め方	産業保健師、養護教諭から今日的健康課題と活動について講義を受け、産業保健及び学校保健をイメージする。さらに、産業および学校の現場を見学しそこで実践されている保健活動について理解を深める。最後にグループ討議により地域保健との連携・協働について探究する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～4	産業保健の目的・理念と基本的概念、産業保健活動と保健師の役割(佐々木)【講義】									
	5～6	産業保健における健康課題と対策(佐々木)【講義】									
	7～14	産業現場における産業保健活動の実際を見学(佐々木・特別講師)【見学】									
	15～16	学校保健の目的・理念と基本的概念、養護教諭の役割(奥田)【講義】									
	17～18	学校保健における健康課題と対策(奥田)【講義】									
	19～26	学校における学校保健の実際を見学(佐々木)【見学】									
	27～34	特別支援学校における学校保健の実際を見学(佐々木)【見学】									
	35～40	地域保健と産業保健・学校保健との連携・協働(佐々木)【プレゼンテーション・討議】									
教科書	標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(医学書院)										
参考書・参考資料等	最新保健学講座3 公衆衛生看護活動論①ライフステージの特性と保健活動(メヂカルフレンド社)										
事前学習・事後学習	事前:公衆衛生看護活動展開論Ⅰで学んだライフステージ別の健康課題を復習する。 学習予定(産業保健・学校保健)の教科書の範囲を熟読しておく。 事後:講義内容を復習し整理しておく。										
他の授業との関連	保健医療福祉行政論 公衆衛生看護活動展開論Ⅰ										
成績評価方法・基準・フィードバック	成績評価には2/3以上の出席を要件とする。レポート80%、講義・演習・見学への参加姿勢20%で総合的に評価する。随時質問には対応する、また最終講義で全過程を振り返り質問を受ける。										
オフィスアワー	随時対応する										
備考	現場見学をする際には、現地の学校及び事業所のルールに従って行動する。 ※実務経験のある教員 佐々木(保健師)										

公衆衛生看護管理論 I (Public Health Nursing Management I (Community Health Assessments))											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	3.0	時間数	45	授業形態	講義・演習
担当教員	●辻よしみ (TSUJI Yoshimi)、藤村保志花 (FUJIMURA Hoshika)										
授業の目的	公衆衛生看護の基盤となる地域診断の基礎理論と地域診断過程について理解し、地域診断能力を養う。										
到達目標	①地域(コミュニティ)の概念と特性について理解する。 ②地域診断の理論・モデル・方法について理解する。 ③地域診断に基づく健康課題の明確化、優先順位の設定、事業計画・実施・評価について実践できる。 ④地域診断に基づいて、地域住民と協働して取り組む意義を探究できる。										
授業の進め方	講義とフィールド演習や学内演習による資料作成、プレゼンテーションを行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~2	公衆衛生看護の基本理念プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション【講義】:辻									
	3~4	地域の概念・特性、地域診断関連モデル【講義】:辻									
	5~6	地域診断の方法【講義・演習】:辻									
	7~8	地域診断:既存の資料の分析【講義・演習】:辻・藤村(特別講義)									
	9~10	地域診断:地区視診【講義・演習】:辻・藤村									
	11~12	地区視診:フィールド演習【演習】:辻・藤村									
	13~14	地域診断:実態調査(健康指標と質問紙調査)【講義・演習】:辻・藤村									
	15~16	地域診断:ファークラスグループインタビュー【講義・演習】:辻・藤村									
	17	地域診断:地域診断に基づく健康課題の明確化、優先順位、【講義・演習】:辻・藤村									
	18	地域診断:地域診断に基づく事業の企画と予算化【講義】:辻・藤村									
	19	地域診断:地域診断に基づく事業計画と評価計画【講義・演習】:辻・藤村									
	20~21	地域診断:地域診断に基づく事業計画の発表【演習】:辻・藤村									
	22~23	公衆衛生看護活動における地域診断の意義と保健師の役割【講義】:外部講師									
教科書	最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論(メヂカルフレンド社) 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論(医学書院) コミュニティアズパートナーモデル(医学書院)										
参考書・参考資料等	地域看護診断【第2版】(東京大学出版会) 地域看護アセスメントガイド(医歯薬出版)										
事前学習・事後学習	事前:演習に用いる地区資料を準備し整理しておく。 事後:公衆衛生看護学実習に向けて、学習内容を整理しておく。										
他の授業との関連	公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学実習 I 地域包括ケア実習 II										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価は受けられません。 定期試験(70%)、地域診断記録(20%)、参加姿勢(10%)で総合的に評価する。 フィードバック:最終講義で全過程を振り返りフィードバックを実施し。必要時、個別に質問を受ける。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	※実務経験のある教員 辻(保健師)、藤村(保健師)										

公衆衛生看護管理論Ⅱ (Public Health Nursing ManagementⅡ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	佐々木純子 (SASAKI Junko)、●井伊久美子 (II Kumiko)										
授業の目的	地域住民が安全・安心に暮らせる地域を目指し地域看護管理のマネジメント機能を学ぶとともに、健康危機管理における保健師の役割と機能を習得する。										
到達目標	①公衆衛生看護管理の諸相(情報管理、組織運営・管理、事業・業務管理、人事管理・人材育成、地域ケアの質保証)について説明できる。 ②健康危機管理における保健師の役割を説明できる。 ③災害保健活動及び感染症保健活動、子どもの虐待予防における行政保健師の活動を説明できる。										
授業の進め方	講義により基礎的知識の理解を深め、ディスカッションにより自己の考えと他者の考えを検討し重要事項を共通認識する。これらをととして公衆衛生看護管理をイメージできるようにする。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	公衆衛生看護管理の特色と基本(井伊)【講義】									
	2	公衆衛生看護管理の諸相:組織運営管理(井伊)【講義】									
	3	公衆衛生看護管理の諸相:情報管理(井伊)【講義】									
	4	公衆衛生看護管理の諸相:人事予算管理・人材育成(井伊)【講義】									
	5	公衆衛生看護管理の諸相:ビッグデータの活用(外部講師)【講義】									
	6	健康危機管理:災害保健活動(井伊)【講義・GW】									
	7~8	健康危機管理:感染症保健活動(井伊)【講義・GW】									
	9~10	健康危機管理:子どもの虐待予防(井伊)【講義・GW】									
	11~12	健康危機管理における保健師の役割と機能(井伊・佐々木)【GW】									
	13~15	公衆衛生看護管理:地域ケアの質保証(井伊・佐々木)【GW】									
教科書	最新 保健学講座5 公衆衛生看護管理論(メヂカルフレンド社)										
参考書・参考資料等	適宜紹介する、自治体の危機管理計画										
事前学習・事後学習	看護管理に関する文献を収集し熟読しておく。 健康危機が想定される災害・感染・虐待等に関するニュース等を調べ資料を準備する。講義内容を復習し整理しておく。										
他の授業との関連	保健医療福祉行政論、公衆衛生看護学実習、地域包括ケア実習Ⅱ										
成績評価方法・基準・フィードバック	レポート60%、講義・演習への参加姿勢40% 総合的に評価する。 原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ評価を受けられません。 最終講義で全過程を振り返り質問を受ける。										
オフィスアワー	随時対応する										
備考	※実務経験のある教員 井伊(保健師)、佐々木(保健師)										

保健医療福祉行政論 (Health and social policy Administration)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●井伊久美子 (Ii Kumiko)、辻よしみ (TSUJI Yoshimi)、大橋義弘 (OHASHI yoshihiro)、岡野由佳 (OKANO Yuka)										
授業の目的	保健医療福祉に関する行政の仕組みや関係法規など保健活動の根拠となる基本的知識を習得し、求められる看護職の役割を考察する。										
到達目標	① 人々の生命・健康と暮らしを支える社会保障制度の理念と構造を説明できる。 ② 憲法に謳われた生存権と公衆衛生の意味と法・制度の位置づけを説明できる。 ③ 社会資源としての諸制度と保健活動を関連付けられる。 ④ 保健医療福祉の法制度の中で果たす保健師の役割を説明できる。										
授業の進め方	講義資料を用いて講義を実施する。 保健活動の事例を用いながら講義を実施する。 適宜・グループ討議や演習を実施する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	憲法25条 生存権と公衆衛生: 井伊									
	2	地域保健の体系 地域保健法の概要: 都道府県と市町村の保健活動: 井伊									
	3	保健医療福祉に係る行財政のしくみ、地方自治と地方分権: 井伊									
	4	地方自治体の保健医療福祉に関する計画: 井伊									
	5	保健計画策定のプロセス: 井伊									
	6~7	健康増進法と健診及び保健指導: 井伊									
	8~9	新たな課題と政策の発展: 健康危機管理、自殺対策、がん対策、感染症対策、母子保健対策: 井伊									
	10	障害者・児対策、難病対策: 井伊									
	11~12	医療・介護費用と法制度、保健師の役割: 岡野									
	13~14	産業保健関連法規: 大橋									
	15	保健医療福祉制度と保健師の役割: 井伊									
教科書	標準保健師講座5 保健医療福祉行政論 (医学書院)										
参考書・参考資料等	「国民衛生の動向」「国民福祉の動向」「労働衛生のしおり (中央労働災害防止協会出版)」										
事前学習・事後学習	事前: 日常生活を支える法制度に関心を持ち授業に臨む。日本国憲法と日本における法制度や自治体等の行政の仕組みと保健医療福祉の対象者の生活との関連に関心を持つ。 事後: 講義内容を復習し、ノートの整理をする。										
他の授業との関連	保健医療福祉行政論演習										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ評価は受けられません。 定期試験80%、レポート20%で総合的に評価する。 フィードバック: 最終講義で全過程を振り返り質問を受ける。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	※実務経験のある教員 辻 (保健師)、井伊 (保健師)										

保健医療福祉行政論演習(Health and social policy Administration Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	60	授業形態	演習
担当教員	●植原千明(UEHARA Chiaki)、藤村保志花(FUJIMURA Hoshika)										
授業の目的	保健医療福祉行政論で修得した知識に基づき、保健師活動における「政策に基づく施策化」および「住民ニーズに基づく施策化」のプロセスを事例を通して学び、看護実践の変革を考察できる。										
到達目標	①保健事業の立案に必要な法・制度を説明できる。 ②健康課題分析に必要な保健・医療・福祉情報の分析の視点を説明できる。 ③地域の健康課題を解決するための保健事業の企画を立案するプロセスを事例を通して説明できる。 ④保健医療福祉行政の基本的な考え方(理念)について事例を通して検討し、保健師の役割と意義を考察できる。										
授業の進め方	保健医療福祉の法・制度、しくみと活用方法を事例演習をとおして理解を深め、施策化のプロセスを学び、保健師の施策化意義を討議により考察する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～2	保健医療福祉システム、公共について									
	3～4	公衆衛生看護活動における法・制度の意味【講義】(植原・藤村)									
	5～6	母子保健事業に関する保健医療福祉の法・制度を調べ資料作成する【演習】(植原)									
	7～8	精神保健事業に関する保健医療福祉の法・制度を調べ資料作成する【演習】(藤村)									
	9～10	生活習慣病に関する事業の保健医療福祉の法・制度を調べ資料作成する【演習】(植原)									
	11～12	感染症保健事業に関する保健医療福祉の法・制度を調べ資料作成する【演習】(藤村)									
	13～14	難病保健事業に関する保健医療福祉の法・制度を調べ資料作成する【演習】(藤村)									
	15～18	高齢者介護に関する保健医療福祉の法・制度を調べ資料作成する【演習】(植原)									
	19～22	医療費分析の視点と読み取り【講義・演習】(外部講師)									
	23～26	政策に基づく「施策化」のプロセスを事例検討【講義・演習】(外部講師)									
	27～30	「住民ニーズに基づく施策化」のプロセスを事例検討【演習】(植原・藤村・外部講師)									
		施策化における保健師の役割と意義【講義・演習】(植原・藤村・外部講師)									
教科書	標準保健師講座5 保健医療福祉行政論(医学書院)										
参考書・参考資料等	「国民衛生の動向」「国民福祉の動向」										
事前学習・事後学習	事前学習:保健医療福祉行政論の講義内容及び実習で学んだ保健事業について復習する。 事後学習:保健事業について資料作成したものを実習で使用できるように整理する。										
他の授業との関連	保健医療福祉行政論 公衆衛生看護学実習										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価は受けられません。 資料作成(50%)発表(20%)レポート(30%) フィードバック:最終講義により全過程を振り返りフィードバックを実施し質問を受ける。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	*実務経験のある教員 植原(保健師)、藤村(保健師)										

疫学(Epidemiology)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●佐々木純子(SASAKI Junko)、藤村保志花(FUJIMURA hoshika)、横山勝教(YOKOYAMA Katunori)										
授業の目的	公衆衛生の診断学である疫学の概念と公衆衛生看護における意義を理解するとともに、健康現象の分析に必要な疫学研究の原理と方法論を理解し、分析の手法を習得する。										
到達目標	①公衆衛生と臨床医学の基盤となる疫学の意義を理解し、基礎的な疫学の解析方法を説明できる。 ②疾病のリスク要因について疫学的手法で分析できる。 ③公衆衛生における保健活動の妥当性を検討する疫学的方法を説明できる。 ④疫学的研究方法について説明できる。 ⑤感染症管理の視点から疫学データの実際を理解し、応用できる。										
授業の進め方	毎回の授業内容のポイントに関する演習問題を解く										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～2	疫学の歴史からみえる疫学の概念と意義(佐々木)【講義】									
	3～4	集団の健康様態の把握の指標(佐々木)【講義・演習】									
	5～6	集団の健康様態の把握の指標の活用(佐々木)【講義・演習】									
	7～10	疫学的研究方法、研究デザイン(佐々木)【講義・演習】									
	11～12	アウトブレイク時の疫学調査、疾病の予防とスクリーニング(藤村)【講義・演習】									
	13～14	疫学と公衆衛生看護(藤村)【講義・演習】									
	15	公衆衛生における疫学の実際(横山)【講義】									
教科書	標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計学(医学書院)										
参考書・参考資料等	保健統計・疫学(南山堂)										
事前学習・事後学習	事前学習: 次回の講義内容部分の予習をしておく。 事後学習: 理解できなかった項目について整理する。										
他の授業との関連	保健統計学、課題研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	成績評価は授業の2/3以上の出席を要件とする。中間試験(20%)定期試験(80%) 毎回の授業の始まりに前回の復習をする。最終講義において、全過程を振り返りポイントを押さえ、質問を受ける。										
オフィスアワー	随時対応する										
備考	※実務経験のある教員 佐々木(保健師)、藤村(保健師)										

保健統計学 (Health Statistics)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	依田 健志(YODA Takeshi)、横山 勝教(YOKOYAMA Katsunori)、藤川 愛(FUJIKAWA Ai)、辻よしみ(TSUJI Yoshimi)										
授業の目的	人間集団に発生するあらゆる健康事象を表す各種保健統計の見方や解析方法を習得する。さらに、解析した結果が健康課題を解決する方策の基礎資料となることを理解する。										
到達目標	①集団の健康現象を指標により把握でき、説明できる。 ②保健統計の基礎的解析方法を身につけることができる。 ③解析した結果を適切な図表で表すことができる。										
授業の進め方	保健統計の基礎解析方法を講義と演習で教授し、解析能力が習得できることを目指す。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～2	統計資料の見方 年次推移、地域分布、関連要因(依田)									
	3～4	保健指標の性格と意味 統計の誤差と偏り、保健指標、死亡率、割合と比、罹患率と有病率、標準化の必要性、年齢調整死亡率、生命表、年次推移、平滑化、コホート観察、将来予測(依田)									
	5～6	各種保健統計の概要 人口動態、感染症発生動向調査、国勢調査、患者調査、国民基礎調査、傷病量、ICD-10、学校保健統計、レセプト(外部講師)									
	7～8	データ収集と記述的解析 データの種類と尺度、単純集計とクロス集計(藤川)									
	9～10	データ収集と記述的解析 度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布図、パーセント点平均と標準偏差の計算(藤川)									
	11～12	統計的推論 確率分布、期待値、正規分布、標準偏差、相関関係、推定(横山)									
	13～14 15	統計的推論 検定、生存分析、回帰分析(横山) 保健統計の総括 質疑応答とまとめ(横山)									
教科書	標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学(医学書院) 国民衛生の動向(最新版)										
参考書・参考資料等	看護学生のための疫学・保健統計(南山堂) 改訂5版 保健統計・疫学(南山堂)										
事前学習・事後学習	各担当教員の指示により行う。										
他の授業との関連	疫学のデータ分析と関連する科目である。										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価は受けられません。 到達目標の達成状況を、期末筆記試験(100%)により評価する。 フィードバックは個別に対応する。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	指示した場合は演習課題や記述試験に用いる電卓、定規を用意すること。 *実務経験のある教員 辻(保健師)										

公衆衛生看護学実習 I (Public health Nursing Practicum I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担当教員	●辻よしみ(TSUJI Yoshimi)、佐々木純子(SASAKI Junko)、藤村保志花(FUJIMURA Hoshika)										
授業の目的	県内の市町をフィールドとして、地域の健康課題を抽出し、住民・関係者と協働して健康課題の解決に取り組む公衆衛生看護活動での地域診断の展開過程を体験することで実践能力を養うと共に、保健師の専門性、役割を考察し、自己の課題を明確にする。										
到達目標	①適切な手法を用いて地域特性、住民の健康状態、生活状況、保健行動等について情報収集及びアセスメントできる。 ②住民の健康状況に関する量的・質的データを分析(分類・要約・比較・推論)及び診断を行い、地域の顕在的・潜在的な健康課題を見出すことができる。 ③地域の健康課題を解決するための保健活動の展開方法を検討できる。 ④地域の健康課題の分析結果を反映した活動計画を立案できる。 ⑤地域の健康課題を住民や関係者と解決・改善に向けて協働できる。										
授業の進め方	①県内の市町をフィールドとして、保健所、保健センター、地域包括支援センターにて実習を行う。 ②学生2名を1組として、各実習施設に1組ずつ実習する。 ③実習形態は地域活動、学内演習、カンファレンス等を組み合わせる。 ④実習計画は、実習の進度に沿って教員と相談の上、学生が主体となって関係者に連絡・調整して立案する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	(前期)	【実習前】 実習前オリエンテーションを受け、実習目的、進め方、事前学習について理解する。 1. 地域のコアとなる「地域に暮らす人々」(地域の歴史、人口統計、住民の様子、価値観と信条)について、既存資料等を用いて情報収集とアセスメントを行う。 2. 興味関心のあるテーマおよび対象を担当教員と共に検討し、地区担当保健師に相談すると共に助言を得てテーマを設定する。 3. 地域診断に基づき健康課題を抽出する。 ①設定したテーマおよび対象に関連したデータの収集のために、地域組織活動および保健活動等への参加等によりインタビューやアンケート調査を実施したり文献・既存資料の収集を実施する。 ②収集したデータの分析及び診断から地域の顕在的・潜在的な健康課題を抽出する。 (後期) 1. 抽出した健康課題を改善・解決するために、既存の保健事業との関連について、明らかにする。 2. 地域診断から健康課題抽出までの過程を実習指導者や保健師等関係者と意見交換し、実現可能性や妥当性のある健康課題の抽出を再考する。 3. 実習報告会を行い、関係者とともに学習内容の共有と学びの統合を行う。 4. 課題レポートを作成し、保健師の専門性、役割について考察する。 個別面接による評価、課題レポートを通して、保健師の専門性や役割を再考する。									
教科書	公衆衛生看護学、専門共通科目で用いた教科書、参考書等を活用する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	【実習前】 公衆衛生看護学専門科目等の復習を行い、地区視診等の学習を当該実習につなげる。また、効率的に文献や既存資料等の収集・分析を進め、効果的に地域診断を深めることができるように実習に臨む。 【実習後】 公衆衛生看護学実習 I・II の両方の実習からの学びを統合し、保健師の専門性、役割を考察し、自己の課題を明確にする。										
他の授業との関連	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護管理論 I、疫学、保健統計学、公衆衛生看護学実習 II 技術チェックの合格を履修要件とする。										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価を受けられません。 実習到達目標の達成状況を、実習評価表70%、実習報告会参加度10%、記録10%、課題レポート10%により総合的に評価する。 フィードバック: 実習報告会、個別面接による評価で全体に対するフィードバックを行う。										
オフィスアワー	実習中は、拠点にしている実習地や帰校日に随時対応する。										
備考	学生間、実習指導者、関係者、教員等との連絡調整を密に行い、充実した実習を行う。 主体的に実習に取り組み、特に住民関係者との関係形成を大事にして学修する。 * 実務経験のある教員 辻(保健師)、佐々木(保健師)、藤村(保健師)										

公衆衛生看護学実習Ⅱ (Public health Nursing PracticumⅡ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	後期	単位数	3.0	時間数	135	授業形態	実習
担当教員	●辻よしみ (TSUJI Yoshimi)、佐々木純子 (SASAKI Junko)、藤村保志花 (FUJIMURA Hoshika)										
授業の目的	個人・家族・集団・地域を対象に、地域診断に基づいて抽出された健康課題に応じた公衆衛生看護活動の展開に必要な基本的能力を養う。										
到達目標	①地域診断から根拠のある健康課題の抽出過程が説明できる。 ②地域の特性を踏まえ、地域の実態に応じた公衆衛生看護活動の展開が説明できる。 ③地域で生活する個人・家族・集団を対象とした公衆衛生看護活動を実践できる。 ④地域の健康課題解決に必要な社会資源を検討できる。 ⑤地域における公衆衛生看護の実践機関である保健所・保健センター・地域包括支援センターの機能を理解し、保健医療福祉のヘルスケアシステムの中で保健師が果たす総合調整機能を説明できる。										
授業の進め方	①公衆衛生看護学実習Ⅰと同じ実習地で行う。 ②学生2名を1組として実習を行い、基本的に同じ実習計画とする。 ③実習計画の立案は、指導保健師、教員で協議し、健康課題に関連する現地で実施されている保健活動(健康相談、健康教育、家庭訪問等)を選定して作成する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	実習前	オリエンテーションの実施 公衆衛生看護学実習Ⅰの開始前にオリエンテーション(学内・現地)を実施し、実習目的・目標、方法を理解する。									
	実習中	○実習地区の地域診断からの健康課題の抽出 公衆衛生看護学実習Ⅰで抽出した健康課題に対して関連すると思われる情報収集や地区視診を実施し、健康課題の精選に努める。 ○実践内容 健康課題の解決に向けた家庭訪問、健康教育等を実施する。 家庭訪問の実施後は事例検討を実施する。 ○成果発表 公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱを連動して展開してきた活動の成果発表を行う。									
	実習後	○実習評価 担当教員との個別面接により実習評価を行う。 (詳細は実習要項を参照)									
教科書	既習科目で用いた教科書、参考書等を活用する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	【実習前】 ①保健師ノートの作成 ②実習地の地域診断ファイルの作成 ③事前の技術演習を自主的に計画し、家庭訪問や健診に用いる技術を練習する。 【実習後】 ①実習記録を整理し、不足している学習を適宜行う。 ②個別面接による評価、課題レポートを通して、保健師の役割を再考する。										
他の授業との関連	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護技術論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、公衆衛生看護学実習Ⅰ技術チェックの合格を履修要件とする。										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価を受けられません。 実習到達目標の達成状況を、実習評価表60%、健康教育15%、事例検討と成果発表会参加度10%、記録5%、課題レポート10%により総合的に評価する。成果発表会、個別面接による評価で全体に対するフィードバックを行う。										
オフィスアワー	実習中は、拠点にしている実習地や帰校日に随時対応する。										
備考	学生間、実習指導者、関係者、教員等との連絡調整を密に行い、充実した実習を行う。 * 実務経験のある教員 辻(保健師)、佐々木(保健師)、藤村(保健師)										

地域包括ケア実習 I (Practicum I : Community Based Comprehensive Care)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	通年	単位数	4.0	時間数	180	授業形態	実習
担当教員	●辻よしみ (TSUJI Yoshimi)、佐々木純子 (SASAKI Junko)、植原千明 (UEHARA Chiaki)、藤村保志花 (FUJIMURA Hoshika)										
授業の目的	地域で生活する母子とその家族を対象に1年を通して、対象者の健康状態や家族状況、暮らしの状況を把握し、継続支援の意義や必要性について学修する。										
到達目標	①乳児期の成長発達状況や家族状況をアセスメントできる。 ②対象の生活の場に応じた適切な保健指導が展開できる。 ③対象に必要な社会資源について理解し、不足する資源について検討できる。 ④対象に共通する特性や課題を把握し、集団の健康課題が考察できる。 ⑤地域で生活する母子とその家族を取り巻く地域の関係機関や多職種及び地域住民と連携・協働する意義、各職種の専門性が理解できる。										
授業の進め方	1年後期から2年前期にかけて、地域で生活する母子とその家族への継続支援を実践者養成コース(公衆衛生看護学、助産学)学生とペアで行う。適宜カンファレンスを実施する。イベントの企画・運営は学生が主体的に実施する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	実習前	1. オリエンテーション 地域包括ケア実習 I の開始前に実践者養成コース(公衆衛生看護学、助産学)合同でオリエンテーションを実施し、実習目的・目標、方法等を理解する。初回訪問の前に継続訪問の対象者には、面会しておく。									
	実習中	2. 地域で生活する母子とその家族の継続支援を家庭、健診会場、交流の場等にて実践者養成コース(公衆衛生看護学、助産学)学生とペアで生後1歳を迎える頃まで実施する。 【支援のタイミングの目安】 ①生後2週間～1か月頃: 1か月健診・電話相談等で対象への挨拶、情報収集 ②生後4～5か月頃: 赤ちゃん訪問、4か月児相談 ③生後1歳頃: 1歳おめでとうイベント(大学) 【イベントの企画】 対象の課題や今後の成長発達に応じた支援を学生が主体的に検討して、イベントを企画・運営する。									
	中間学習	3. 個別事例を用いて実践者養成コース(公衆衛生看護学、助産学)合同で事例検討を実施し、保健師と助産師の継続支援における専門性や役割等を検討する。									
	最終報告会	4. 実践者養成コース(公衆衛生看護学、助産学)合同で実習の学びの報告を行う。									
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	【事前学習】 ・既習の乳児の発達段階と保健指導技術を復習し、対象に応じた保健指導が展開できるように準備する。 ・対象者が活用可能な地域の保健事業や社会資源について整理する。 ・その他、保健師ノートの作成や実習事前課題は別途提示する。 【事後学習】 ・対象への支援を実施した後は、適宜カンファレンスを開催して自己の学修をリフレクションする。個別の支援から集団・地域への支援につなげて考える。										
他の授業との関連	地域包括ケア特論、地域包括ケア実習 II										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価を受けられません。 ディスカッション参加度(20%)実習記録(20%)実践評価表(60%) 事例検討、最終報告の節目でまとめや振り返りを全体にフィードバックし、カンファレンスや個別面接による評価で学習到達度を個別にフィードバックする。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	学生間、実習指導者、関係者、教員等との連絡調整を密に行い、充実した実習を行う。 * 実務経験のある教員 辻(保健師)、佐々木(保健師)、植原(保健師)、藤村(保健師)										

地域包括ケア実習Ⅱ (PracticumⅡ: Community Based Comprehensive Care)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担当教員	●辻よしみ (TSUJI Yoshimi)、佐々木純子 (SASAKI Junko)、植原千明 (UEHARA Chiaki)、藤村保志花 (FUJIMURA Hoshika)										
授業の目的	香川県内市町をフィールドとして、健康危機管理の関係部署から情報収集およびアセスメントして既存の健康危機管理計画を分析する。分析することで見えてきた潜在的な健康課題への予防対策や健康危機に対応できる地域包括ケアシステム(全世代)の再構築について検討できる。										
到達目標	① 様々な健康危機管理の基盤となる法律や制度を理解し説明できる。 ② 健康危機が人々の健康に及ぼす影響と健康危機管理活動の実態から地域住民が安心して暮らせる全世代の地域包括ケアシステムを検討できる。 ③ コミュニティの健康危機管理について関係機関や住民と意見交換できる。 ④ 人々の暮らしにおける健康危機管理と保健師のマネジメント機能について考察できる。										
授業の進め方	県内市町をフィールドとして、既存の健康危機管理計画を収集し、読み解く。健康危機管理計画をもとに現地のフィールド学習により潜在的な健康課題を探究する。自治体の協力を得ながら住民にインタビューや実態調査を行い、予防対策や地域包括ケアシステムの再構築を踏まえた支援方策を関係機関や関係者と共に検討する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	実習前	1. オリエンテーション 地域包括ケア実習Ⅱの開始前にオリエンテーションを実施し、実習目的・目標、方法等を理解する。									
	実習中	2. 現地オリエンテーション(自治体や関係機関) フィールドとする自治体の地域特性と健康危機管理体制【臨地講義】 3. 現地フィールド学習 健康危機管理に関する住民や関係機関へのインタビューや実態調査【現地調査】 調査結果を分析し、健康危機における潜在的な健康課題を検討【学内演習】 潜在的な健康課題から地域の強みを活かした予防対策や地域包括ケアシステム(全世代)を検討【学内演習】 4. 成果報告会 健康危機管理における予防対策や地域包括ケアシステムの再構築について現地で発表 健康危機管理における保健師の役割について探究									
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	既習科目で用いた教科書、参考書等を活用する。										
事前学習・事後学習	【事前学習】 公衆衛生看護管理論Ⅱの健康危機管理や公衆衛生看護活動展開論Ⅰの地域包括ケアシステムを復習しておく。フィールドとなる自治体に関する資料(健康危機管理計画等)を収集し地域特性を把握しておく。 【事後学習】 健康危機管理における保健師の役割について考察する。										
他の授業との関連	公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ、地域包括ケア実習Ⅰ										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価は受けられません。 実習成果発表(50%)、実践評価表(20%)、レポート(30%) フィードバック: 学内演習最終日に全過程を振り返り個別で評価を実施し質問を受ける。										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考	学生間、実習指導者、関係者、教員等との連絡調整を密に行い、充実した実習を行う。 * 実務経験のある教員 辻(保健師)、佐々木(保健師)、植原(保健師)、藤村(保健師)										

課題研究 I (Themed Research I (Research planning and Design))											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	後期	単位数	4.0	時間数	60	授業形態	演習
担当教員	●辻よしみ (TSUJI Yoshimi)、佐々木純子 (SASAKI Junko)、植原千明 (UEHARA Chiaki) 藤村保志花 (FUJIMURA hosika)、ほか博士前期課程大学院担当教員										
授業の目的	公衆衛生看護学実習、地域包括ケア実習の実践より公衆衛生看護学領域における自らの疑問や問題意識を基に研究の問いを見出し、公衆衛生看護の実践に寄与できる研究課題を決定し研究計画書を作成できる。その過程を通して批判的思考・論理的思考を養う。										
到達目標	① 自己の疑問や問題意識に関連した文献検討ができる。 ② 自己の疑問の意味や文献検討を基にプレゼンテーションを実施できる。 ③ 研究課題・目的について学生や教員とともに実践への寄与及び意義についてディスカッションを実施し検討できる。 ④ 研究目的に応じた研究方法の選択や内容を推敲し、研究計画書を作成できる。 ⑤ 課題研究計画発表会での発表を基に自己の研究計画書の推敲ができる。 ⑥ 研究における倫理的思考や姿勢について検討し倫理委員会への申請ができる。										
授業の進め方	1年次前期の講義及び演習からの自己の疑問及び問題意識について文献検討およびプレゼンテーション、ディスカッションを行う。それらの過程を通じて自己の研究課題の明確化と研究計画書作成を行う。作成した研究計画書を基に倫理審査委員会提出を行う。 実施にあたっては、研究の進捗状況に応じてスケジュール調整を実施する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1 2~4 5~15 16~18 19~25 26~30	ガイダンス 自己のテーマの明確化 文献検討及びプレゼンテーションの実施 研究目的の明確化 研究目的に沿った課題研究計画書の作成 課題研究計画発表会で発表 課題研究計画書を基に倫理審査委員会提出を実施									
教科書	特に指定はしない										
参考書・参考資料等	適宜紹介する										
事前学習・事後学習	事前学習: 自分の研究の進捗状況を報告できるように資料を準備する。 事後学習: 討議で質問されたことや指摘されたことに対して振り返り修正を加えていく。										
他の授業との関連	質的看護研究方法論、量的看護研究方法論、公衆衛生看護学実習及び地域包括ケア実習										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価を受けられません。 文献検討・内容検討・研究課題の焦点化(30%)、プレゼンテーション内容(20%)、ディスカッション内容(20%)、研究計画書作成(30%) 毎回のゼミにおいて、フィードバックを実施する。										
オフィスアワー	随時対応する										
備考	* 実務経験のある教員 辻(保健師)、佐々木(保健師)、植原(保健師)、藤村(保健師)										

課題研究Ⅱ (Themed ResearchⅡ (Essay writing))											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	6.0	時間数	90	授業形態	演習
担当教員	●辻よしみ (TSUJI Yoshimi)、佐々木純子 (SASAKI Junko)、植原千明 (UEHARA Chiaki) 藤村保志花 (FUJIMURA hosika)、ほか博士前期課程担当教員										
授業の目的	作成した研究計画書に沿って、研究の遂行及び課題研究論文を作成することで実践的研究能力を養う。また、この課題研究の取り組みの過程から公衆衛生看護学領域の発展に寄与できる基礎的能力や今後の継続的学習につなげることができる。										
到達目標	① 研究計画書に基づく研究データの収集ができる。 ② 得られた研究データを基に分析を行い、結果を導くことができる。 ③ 結果を基に、文献を活用し結果から導きだされる考察を深めることができる。 ④ 研究の限界を理解し、今後の課題について明確にすることができる。 ⑤ 課題研究発表会により研究発表を実施できる。 ⑥ 課題研究の発表を基に自己の課題研究論文推敲し提出ができる。 ⑦ 研究のプロセスを通して看護学研究の基本や研究に必要な倫理について学ぶことができる。										
授業の進め方	学生の自己作成した研究計画書に基づき、データ収集、分析、論文作成を行う。指導教員と共にゼミナール形式で進めていく。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～10	研究データ収集									
	11～30	研究データの分析(分類・要約・比較)により結果の記述									
	31～40	研究を分析した結果から考察及び研究の限界、今後の課題の明確化									
	41～50	課題研究論文の作成									
	51～60	課題研究論文発表会での発表及び修正 課題研究論文の完成及び提出									
教科書	特に指定はしない										
参考書・参考資料等	適宜紹介する										
事前学習・事後学習	事前学習: 自分の研究の進捗状況を報告できるように資料を準備する。 事後学習: 討議で質問されたことや指摘されたことに対して振り返り修正を加えていく。										
他の授業との関連	質的看護研究方法論、量的看護研究方法論、公衆衛生看護学実習及び地域包括ケア演習と関連させて取り組む										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価は受けられません。 学位授与の基準及び課題研究論文の評価方法は別に定める。 フィードバック: 個別にフィードバックを実施する。										
オフィスアワー	随時対応する										
備考	* 実務経験のある教員 辻(保健師)、佐々木(保健師)、植原(保健師)、藤村(保健師)										

科目区分	科目名	担当教員				配当 年次	単位数		DP1 責務 遂行	DP2 助産 実践	DP3 課題 探求	DP4 連携 協働	DP5 地域 貢献	修了 要件	ページ 番号
							必 修	選 択							
専門 共通科目	先端医学論※	古山達雄	平川栄一郎	奥田潤	樋本尚志	1 前		2		○			◎	必修 10単位	1
		多田達史	岡田仁												
	チーム医療特論※	多田達史	森田公美子			1 後		2		○		◎			2
	保健統計学特論	比江島欣慎				1 前		2		○	◎				3
	生命・医療倫理論※	植村裕子	岡田仁	大栗聖由	塩田敦子	1 後	2		◎	○					4
	英論文作成概論	南貴子				1 前		2			◎		○		5
		近藤真紀子	小野美德	岩本真紀	小林秋恵										
	看護理論	森田公美子	岡西幸恵			1 前	2			○	◎				6
	看護と哲学	近藤真紀子	森田公美子	出村和彦	西村ユミ	1 後	2	○		◎					7
	質的研究方法論	近藤真紀子	岩本真紀	岡田麻里	小林秋恵	1 前	2			○	◎				8
	量的研究方法論	比江島欣慎	片山陽子	竹内千夏		1 前	2			○	◎				9
	地域包括ケア特論	片山陽子	辻よしみ			1 後	2					◎	○		10
看護政策特論	井伊久美子				1 後	2					○	◎	11		
看護教育学特論	小野美德				1 後	2			○	◎			12		
小計(12科目)							10	14							
専門 領域	次世代 看護学 育成	ウィメンズヘルス看護学特論	木戸久美子	植村裕子	松下有希子	榮 玲子	1 前	2		○	◎			必修 4単位	13
			博士前期課程の担当教員												
		ウィメンズヘルス看護学演習	木戸久美子	植村裕子	松下有希子	榮 玲子	1 後	2			○	◎			
小計(2科目)							4	0							
実践者 養成コ ース専 門科目	助 産 学	助産学概論	木戸久美子	植村裕子	榮 玲子	1 前	1		◎				○	15	
		助産実践概論	植村裕子	木戸久美子	筒井邦彦	1 前	1		○	◎				16	
		周産期学・女性学特論	塩田敦子	香西祥子			1 通	2		○	◎			17	
		新生児学・乳幼児学特論	日下隆	小谷野耕祐	中村信嗣	飛矢純子	1 通	2		○	◎			18	
		助産実践特論Ⅰ	木戸久美子				1 前	2		○	◎			19	
		助産実践特論Ⅱ	植村裕子	木戸久美子	松下有希子		1 前	2		○	◎			20	
		助産実践特論Ⅲ	植村裕子				1 前	2		◎			○	21	
		助産実践特論Ⅳ	木戸久美子				1 通	2		◎			○	22	
		助産実践演習Ⅰ	木戸久美子	植村裕子	松下有希子	大栗聖由	1 通	1	○	◎					23
		助産実践演習Ⅱ	植村裕子	木戸久美子	松下有希子		2 通	1	○	◎					24
		地域母子保健活動論	榮 玲子	大野香織	木戸久美子		1 前	2				○	◎		25
		助産管理	植村裕子	松尾真理	松下有希子		1 後	2		○		◎			26
		助産学実習Ⅰ	木戸久美子	植村裕子	松下有希子		1 前	2		◎	○				27
		助産学実習Ⅱ	木戸久美子	植村裕子	松下有希子		1 通	5		◎	○				28
		助産学実習Ⅲ	植村裕子	木戸久美子	松下有希子		1 後	3		◎		○			29
		助産学実習Ⅳ	植村裕子	木戸久美子			2 前	1		○		◎			30
	小計(16科目)							31	0						
共通 科目	地域包括ケア実習Ⅰ	植村裕子	木戸久美子	松下有希子		1後~2前	4					○	◎	必修 6単位	31
		木戸久美子	植村裕子			2 通	2					○	◎		32
	小計(2科目)							6	0						
特別研究 科目	課題研究Ⅰ	木戸久美子	植村裕子	松下有希子	片山陽子	1 後	4		○	◎				必修 10単位	33
		吉本知恵	近藤真紀子	枝川千恵子	則包和也										
	課題研究Ⅱ	小野美德	筒井邦彦	比江島欣慎	岩本真紀	2 通	6		○	◎					34
小林秋恵		岡田麻里	土岐弘美	森田公美子											
小計(2科目)							10	0							
合計(34科目)							61	14						61単位	

ディプロマ・ポリシー(DP)

◎:非常に対応している ○:対応している

- DP1 責務遂行能力
- DP2 助産実践能力
- DP3 課題探求解決能力
- DP4 連携・協働力
- DP5 地域貢献力

ディプロマ・ポリシーの詳細については、大学院ガイドで確認してください。

先端医学論 (Medical Frontiers in Health Sciences)											
必修・選択の区別	必修(臨床検査学) 選択(看護学)	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●奥田 潤 (OKUDA Jun)、古山 達雄 (FURUYAMA Tatsuo)、平川 栄一郎 (HIRAKAWA Eiichiro)、樋本 尚志 (HIMOTO Takashi)、多田 達史 (TADA Satoshi)、岡田 仁 (OKADA Hitoshi)										
授業の目的	近年、医学における技術の進歩は目覚ましいものがある。医療の現場に最新の技術が導入された場合、医療従事者として円滑に対応していく必要がある。本講では、注目されている先端医学のトピックス、導入に際しての課題、将来の展望などを学習し、医療現場において先進的医療にも対応できる資質を高めることを目標とする。										
到達目標	①最新医療に導入に際しての課題を倫理面も含め十分理解できる。 ②先端医学の将来の展望などについて考察できる。										
授業の進め方	各回、講義形式で授業を進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	総論①ガイダンス 岡田									
	2	総論②先端医学の歴史Ⅰ 岡田									
	3	総論③先端医学の歴史Ⅱ 岡田									
	4	総論④先端医学導入における対応Ⅰ 岡田									
	5	総論⑤先端医学導入における対応Ⅱ 岡田									
	6	各論①老化現象と老化抑制の最新知見Ⅰ 古山									
	7	各論②老化現象と老化抑制の最新知見Ⅱ 古山									
	8	各論③病原細菌の宿主細胞内生存戦略Ⅰ 奥田									
	9	各論④病原細菌の宿主細胞内生存戦略Ⅱ 奥田									
	10	各論⑤ゲノム診療用病理組織検体の取り扱い 平川									
	11	各論⑥分子標的薬に対するコンパニオン診断 平川									
	12	各論⑦ アポトーシスの評価方法とその問題点 樋本									
	13	各論⑧ オートファジーの評価方法とその問題点 樋本									
	14	各論⑨ リポタンパク機能と評価方法Ⅰ 多田									
	15	各論⑩ リポタンパク機能と評価方法Ⅱ 多田									
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	必要に応じて資料を配布する。										
事前学習・事後学習	事前学習:各論では各回テーマを提示するので、該当テーマにの概要を把握しておく。 事後学習:各回の重要事項をその日の内に整理しておく。										
他の授業との関連	チーム医療特論、生命・医療倫理論										
成績評価方法・基準・フィードバック	担当教員が発表内容(プレゼンもしくはレポート)を評価し、それらの平均で評価する(100%)。評価基準は、到達目標に達しているか総合的に判定する。フィードバックは個別対応とする。										
オフィスアワー	随時受け付ける。研究室35(古山)、研究室41(平川)、研究室32(樋本)、研究室38(奥田)、研究室36(多田)、研究室45(岡田)										
備考	*実務経験がある教員:古山(医師)、平川(医師)、樋本(医師)、奥田(薬剤師)、多田(臨床検査技師)、岡田(医師)										

チーム医療特論 (Team Medicine and Practice)											
必修・選択の区別	必修(臨床検査学) 選択(看護学)	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担当教員	●多田 達史 (TADA Satashi)、森田 公美子 (MORITA Kumiko)										
授業の目的	信念対立を解消し、より建設的なコラボレーションや創造的な医療現場を作ることを目的に、超メタ理論としての構造構成主義の中核概念である関心相関性の原理を学修する。さらに、職種を超えたメンバーでのディスカッションを通して、専門分野に属する自分が考える価値の側面をいったん相対化することで、相手の考える価値を理解し、それを理解した上で(関心相関的視点に立って)、医療現場における信念対立を解消し、より妥当な判断を生み出していくことを具体的な事例を交え探求する。										
到達目標	① チーム医療でおきる信念対立の状況が理解できる。 ② 信念対立を説明する「信念対立説明アプローチ」の理論と技法を理解できる。 ③ 信念対立説明アプローチを職場や生活の場で適用できる。										
授業の進め方	講義、グループディスカッション、実践報告で授業を進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~2	1) 信念対立とは (多田・京極)									
	3~4	2) チーム医療と信念対立 3) 信念対立説明アプローチの理論的基盤と技法論的基盤 (多田・京極)									
	5~8	4) チーム医療で体験した信念対立と対処法について(グループディスカッション) (多田・森田) 5) 上記で話し合った内容を図・表などにまとめる									
	9~14	6) 本授業で学んだことや気づいたことを視点として、各自が実践し、その結果として現場がどのように変わったか、どのような難しさがあったかについて実践報告をする。(多田・森田)									
	15	7) まとめ (多田)									
教科書	資料を配布する										
参考書・参考資料等	医療関係者のための信念対立説明アプローチ:コミュニケーション・スキル入門(誠信書房、京極 真)										
事前学習・事後学習	医療現場で起きている信念対立又は生活の中で起きている信念対立に関心をもって授業に臨むこと。										
他の授業との関連	健康心理看護学特論を学修する際、臨床での問題解決につながる手法を学ぶことが可能。										
成績評価方法・基準・フィードバック	授業への参加態度(20%)及びプレゼンテーション・レポート等(80%)で総合的に評価する。 フィードバックは個別対応とし、評価内容を説明する。										
オフィスアワー	適宜 研究室36(多田)、研究室8(森田)										
備考	1 集中講義とする。 2 前半を受講後に実践を行い、後半に実践報告を行う。 * 実務経験のある教員: 多田(臨床検査技師)、森田(看護師)										

保健統計学特論 (Advanced course of Biostatistics)											
必修・選択の区別	必修(公衆衛生看護学) 選択	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担当教員	比江島 欣慎 (HIEJIMA Yoshimitsu)										
授業の目的	本講義では、研究を計画し、データを収集・管理し、分析・考察し、結果を公表するために必要となる統計学(データサイエンス)的な基本知識および適切な手続きを学ぶ。特に講義の大半が割り当てられる分析・考察の部分では、統計的推定・検定の基本的な考え方や統計量が示す意味をコンピュータの力を借りて学修する。										
到達目標	①統計学における基本的な考え方を説明できる ②統計的考察に基づいた主張・判断ができる ③データに基づいた各種研究論文の理解等ができる ④データを介して真理を探究するプロセスを説明できる										
授業の進め方	①対面授業に参加し、ノートをとる ②①のノートとオンデマンド教材を使って復習する ③知識確認テストを受ける ④ノートを整理して提出する										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	データサイエンス的思考の基礎【講義】									
	2	データの尺度、データの入力方法【講義】									
	3	記述統計と推測統計【講義】									
	4	区間推定と検定の考え方【講義】									
	5	JMPのインストールと基本的な使い方【演習】									
	6	JMPを使ったデータ分析1(一変量の分布 -記述統計-)【講義・演習】									
	7	JMPを使ったデータ分析2(一変量の分布 -推測統計-)【講義・演習】									
	8	JMPを使ったデータ分析3(二変量の関係 -カイ2乗検定など-)【講義・演習】									
	9	JMPを使ったデータ分析4(二変量の関係 -分散分析など-)【講義・演習】									
	10	JMPを使ったデータ分析5(二変量の関係 -回帰分析など-)【講義・演習】									
	11	JMPを使ったデータ分析6(相関分析)【講義・演習】									
	12	JMPを使ったデータ分析7(重回帰分析など)【講義・演習】									
	13	JMPを使ったデータ分析8(因子分析など)【講義・演習】									
	14	総合演習									
	15	まとめ									
教科書	「ぜんぶ絵で見る医療統計」比江島欣慎(羊土社)										
参考書・参考資料等	適宜、必要な資料を配付する										
事前学習・事後学習	事前学習: 指定された資料を使って予習する 事後学習: 講義・演習の内容をノートに整理する										
他の授業との関連	各領域の特論・演習と特別研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	到達目標の達成状況を知識確認テスト(約10%)、演習課題(約10%)、期末試験もしくはレポート(約80%)で総合的に評価する 評価内容: 基本知識が身についているか、統計学的な思考ができているか フィードバック: 評価結果の確認、評価結果の確認期間を設けて対応する										
オフィスアワー	授業の前後、および研究室(要事前連絡)にて対応する										
備考											

生命・医療倫理論 (Health Care and Bioethics)											
必修・選択の区別	必修(助産学) 選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●植村 裕子 (UEMURA Yuko)、岡田 仁 (OKADA Hitoshi)、大栗 聖由 (OGURI Masayoshi)、塩田 敦子 (SHIOTA Atsuko)										
授業の目的	バイオサイエンスおよび医療に従事する研究者、高度専門職業人は、人権、生命倫理に十分な配慮を行いながら、医療を実践して行かなければならない。生命科学の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題、古くから解決の難しい医療倫理の問いについて、包括的あるいは個別に、基礎知識や基本的考え方を学ぶとともに実例により理解を深める。										
到達目標	①生命倫理の問題について広く概説できる。 ②それぞれの問題について理解を深め、自分なりの考え方を示すことができる。 ③実際の医療、研究の場面においてチームで議論するための基本的考え方や構えを身につける。										
授業の進め方	主に講義形式で授業を行うが、グループワーク、事前学習、プレゼンテーション、討議などの方式を用いながら、自ら考えることを中心に生命・医療倫理を身近に感じてもらう。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	人間とその尊厳(岡田)									
	2	新生児医療(岡田)									
	3	遺伝子・遺伝性疾患、遺伝カウンセリング 再生医療(岡田)									
	4	脳死と臓器移植(岡田)									
	5	救急医療、災害医療(岡田)									
	6	患者の権利とインフォームドコンセント、SDM(大栗)									
	7	ヒトを対象とする医学系研究に関する倫理指針 倫理委員会の役割(大栗)									
	8	生殖補助医療技術における子の出自を知る権利(南)									
	9	生命の始まりをめぐる倫理問題①(植村)									
	10	生命の始まりをめぐる倫理問題②(植村)									
	11	生殖補助医療、出生前診断・着床前診断、人工妊娠中絶(塩田)									
	12	実例に対する討議、レポート①(塩田)									
	13	実例に対する討議、レポート②(塩田)									
	14	実例に対する討議、レポート③(塩田)									
	15	実例に対する討議、レポート④(塩田)									
教科書	特に指定しない										
参考書・参考資料等	はじめて出会う生命倫理、玉井真理子、大谷いづみ 編、有斐閣 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 ガイダンス(最新版)										
事前学習・事後学習	事前学習：日頃から生命倫理に関するニュース、記事に興味をもってほしい。 事後学習：医療に携わり修士課程を修めるものとして生命倫理について自らの考えを述べられる。										
他の授業との関連	医療に携わり修士課程を修めるものとして、その専門分野が何であれ、生命倫理の基礎を学ぶことは大きな力となると考える。										
成績評価方法・基準・フィードバック	課題のプレゼンテーション、討議、レポートにより総合的に評価する。 1～5回30%、6～7回10%、9～10回10%、11～15回50%の評価配分とする。 評価の視点：担当教員が行う各担当項目に関する倫理的な考え方を中心としてプレゼンテーション、討議、レポートが行われているか評価する。 フィードバックは各担当教員ごとに時期を設定し行う。 *原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	植村(研究室31) 個別に対応する。以下のメールアドレスに要件を書いて事前に予約をとる。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	意見や質問を歓迎し、授業への積極的な参加を希望します。 *実務経験のある教員：植村(助産師)、塩田(医師)、岡田(医師)、大栗(臨床検査技師)										

英論文作成概論 (Introduction to the Creation of English Papers)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	●南 貴子(MINAMI Takako)										
授業の目的	医療系の英文の読解を通して、医療系英文のスタイルに慣れると同時に、英語論文作成において必要となる基本的英語力を養う。										
到達目標	医療従事者として養っておくべき英語力を高め、医療英語・英語論文作成に必要な基礎的知識を身につける。										
授業の進め方	毎回、担当者を決めて、文献の報告を行う。報告担当の回に無断欠席した場合は、単位を認めない。必要に応じて視聴覚教材を用いる。授業には、英語辞典を持参すること。 英文の正確な内容把握と語彙力の強化を図るため、定期的に小テストを行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	授業ガイダンス									
	2	Medical Topic 1									
	3	Medical Topic 2									
	4	Medical Topic 3									
	5	Medical Topic 4									
	6	Medical Topic 5									
	7	Medical Topic 6									
	8	Review 1									
	9	Medical Topic 7									
	10	Medical Topic 8									
	11	Medical Topic 9									
	12	Medical Topic 10									
	13	Medical Topic 11									
	14	Medical Topic 12									
	15	Review 2									
教科書	適宜指示する。										
参考書・参考資料等	適宜指示する。										
事前学習・事後学習	発表者以外の受講生も全員、毎回文献を読んできてくることが前提となる。										
他の授業との関連	最低限の英語力は、大学院における研究の基礎となります。										
成績評価方法・基準・フィードバック	平常点80点、定期試験20点 原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価を受けられません。										
オフィスアワー	適宜対応(要事前予約)										
備考	不定期に課題を出します。「授業を欠席・遅刻したことにより課題提出について知らなかった」等は、提出を遅らせる理由として認められませんので、注意してください。 授業内容については授業の進行の都合上、若干変更する場合があります。										

看護理論(Nursing Theory and Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●近藤真紀子(Makiko KONDO), 小野美穂(Miho ONO), 岩本真紀(Maki IWAMOTO), 森田公美子(Kumiko MORI TA), 小林秋恵(Akie KOBAYASHI), 岡西幸恵(Sachie OKANISHI)										
授業の目的	実践における看護理論の必要性と活用方法について学ぶ。										
到達目標	①理論とは何かについて説明できる。 ②看護学において、理論がなぜ必要かについて説明できる。 ③理論の実践への応用について説明できる。 ④理論の生成・評価・検証について説明できる。 ⑤主要な理論について説明できる。 ⑥理論を実践の場でどのように活用でき、それによってどのような効果が期待できるのかを、具体的な事例を挙げて説明することができる。										
授業の進め方	課題1～3についてグループワークを行い、プレゼンテーション・ディスカッションを行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	ガイダンス									
	2	課題1～3の進め方:グループワーク									
	3	課題1(到達目標⑤):グループワーク(理論の選定)									
	4	課題1(到達目標⑤):グループワーク(選択した理論に関する学習)									
	5	課題1(到達目標⑤):グループワーク(プレゼンテーションの準備)									
	6	課題2(到達目標⑥):グループワーク(事例の選択)									
	7	課題2(到達目標⑥):グループワーク(事例の分析)									
	8	課題2(到達目標⑥):グループワーク(プレゼンテーションの準備)									
	9	課題3(到達目標①～④):グループワーク(理論とは何か、看護における理論の意義)									
	10	課題3(到達目標①～④):グループワーク(実践での理論の活用, 理論の生成・評価・検証)									
	11	課題3(到達目標①～④):グループワーク(プレゼンテーションの準備)									
	12	プレゼンテーション&ディスカッション:課題1									
	13	プレゼンテーション&ディスカッション:課題2									
	14	プレゼンテーション&ディスカッション:課題3									
	15	総括									
教科書	筒井真優美:看護理論の業績と理論評価, 医学書院.										
参考書・参考資料等	佐藤栄子著(2009):中範囲理論入門—事例を通して優しく学ぶ(日総研出版). 野川 道子著(2010):看護実践に活かす中範囲理論(メジカルフレンド社). Jacqueline Fawcett(原著)、太田喜久子(通訳)、(2008):フォーセット看護理論の分析と評価(医学書院).										
事前学習・事後学習	教科書・参考書に目を通し、理論の概要について事前学習を行う。 グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションを通して、各専門領域における実践や、各自の修士論文・課題研究に、理論がどのように関連するのかを熟考する。										
他の授業との関連	看護学特別研究、課題研究										
成績評価方法・基準・フィードバック	グループワークへの貢献度(20%)、プレゼンテーションの完成度(50%)、最終レポート(30%)。 フィードバックは、各回のグループワーク時、プレゼンテーション後など、必要に応じてその都度行う。										
オフィスアワー	随時										
備考											

看護と哲学(Philosophy in Nursing Practice)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●近藤真紀子(KONDO Makiko), 森田公美子(MORITA Kumiko), 出村和彦(DEMURA Kazuhiko)、西村ユミ(NISHIMURA Yumi)										
授業の目的	看護学と哲学は、離れた存在に見える。しかし、医療の現場で起きる疑問や問いに対し、深く「考える」ためには、哲学的思索が必要である。看護実践における問いに対し、既成の概念や枠組みを棚上げした上で、根本的に問い考え捉えなおすことで、実践した看護の重要性や普遍性を再認識するとともに、新しい考え方や枠組みを創出することが可能になる。 本講では、これまでの哲学の流れを学修し、「人間は世界をどう認識しているのか」についての理解を深めるとともに、哲学の必要性を認識したエピソードを自己開示し、その問いに対する考えと根拠を示し、知識や価値観の体系化に挑戦する。										
到達目標	① 哲学の基本的事項が説明できる。 ② 哲学が、なぜ看護実践において必要か説明できる。 ③ 看護実践で体験したエピソードについて、何が起きているのか、何が問題なのかについて、根拠を示しながら哲学的に分析できる。 ④ 現象学と看護実践の関連について説明できる ⑤ ケアリングと看護哲学について説明できる										
授業の進め方	講義、グループディスカッション、実践報告で授業を進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1-5	I. 哲学の基礎 (出村・近藤)【講義・討議】 1. 哲学とは何か 2. 哲学はなぜ必要か 3. 哲学は宗教・科学・倫理・美学などどのように異なるのか 4. 哲学は何についてどのように思考するのか 5. 哲学における学問的な戦略(研究方法論など)はどのようなものか 6. 哲学が現代社会になぜ必要か 7. 哲学は医療に何をもたらすのか									
	6-10	II. 看護ケアの現象学 (西村)【講義・討議】									
	11-12	III. ケアリングと看護哲学 (近藤)【講義・討議】 1. Holism 2. Caring 3. Jean WatsonのTranspersonal caring									
	13-14	IV. 専門看護師とケアリング (森田)【講義・討議】									
	15	V. まとめ(近藤)【講義・討議】									
教科書	授業の中で提示する。										
参考書・参考資料等	講義の中で提示する										
事前学習・事後学習	医療現場で生じる疑問に関心をもって授業に臨むこと。										
他の授業との関連	チーム医療特論と関係し、専門領域科目と特別研究に発展する基礎的な科目である。										
成績評価方法・基準・フィードバック	評価方法は、レポート、授業でのプレゼンテーション、討論での発言内容とする。看護における現象に対して問いを立て、それに対して、思い込みを排除しつつ、筋道を立てて本質を深く探求しているかを評価基準とする。フィードバックは、全体あるいは個別に行う。										
オフィスアワー	適宜										
備考	1 集中講義とする。 2 後半に哲学の必要性を認識したエピソードを自己開示し、その問いに対する考えと根拠をプレゼンテーションする。 ※実務経験のある教員:近藤(看護師),森田(がん看護専門看護師)										

質的研究方法論 (Qualitative Approach for Nursing Study)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・討議・演習
担当教員	●近藤 真紀子 (KONDO Makiko)、岩本 真紀 (IWAMOTO Maki)、小林 秋恵 (KOBAYASHI Akie)、岡田 麻里 (OKADA Mari)										
授業の目的	質的帰納的研究手法を用いた論文のクリティーク、質的研究手法を用いた修士論文の取り組みを目指して、質的研究の基礎について探求する										
到達目標	① 研究・実践・理論の関係性について理解できる。 ② 研究の問いと研究デザインについて理解できる。 ③ 看護実践における質的研究の意義について理解できる。 ④ 質的研究の種類と学術的基盤について説明できる。 ⑤ 質的研究におけるデータ収集の方法について説明できる。 ⑥ 質的研究における分析方法について説明できる。 ⑦ 質的研究のクリティークについて説明できる。										
授業の進め方	学生のグループワーク、プレゼンテーションを中心に授業をすすめる。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～2	研究・実践・理論の関係性(岩本)【講義・演習】 看護実践における質的研究の意義(岩本)【講義・演習】 研究の問いと研究デザイン(岩本)【講義・演習】									
	3～4	質的研究の理論的基盤、量的研究との違い(岩本)【講義・演習】									
	5～6	質的研究における論文レビューとクリティーク(小林)【講義・演習】									
	7～8	質的研究におけるデータ収集と分析方法(岡田)【講義・演習】									
	9～10	質的研究の種類と学術的基盤(1)現象学的アプローチ(岡田)【講義・演習】 質的研究の種類と学術的基盤(2)グラウンデッド・セオリー・アプローチ(岩本)【講義・演習】									
	11～12	質的研究の種類と学術的基盤(3)エスノグラフィー(岡田)【講義・演習】									
	13～14	質的研究の種類と学術的基盤(4)その他の手法(質的記述的研究、KJ法など)(小林)【講義・演習】 質的研究のクリティーク(小林)【講義・演習】									
	15										
教科書	黒田裕子, 中木高夫, 逸見功監訳: パーンズ&グローブ看護研究入門 評価・統合・エビデンスの生成(エルゼビア・ジャパン株式会社)										
参考書・参考資料等	講義の中で紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習: シラバスや授業計画を確認し、該当部分について、学生同士の意見交換や討議ができるように準備しておく。 事後学習: 授業内容の復習をして、理解度を高める。										
他の授業との関連	特別研究と直結する。										
成績評価方法・基準・フィードバック	プレゼンテーションと意見交換(40%)、グループワークへの貢献と参加(30%)、クリティーク資料と発表(30%)。フィードバックは、プレゼンテーションに対して、その都度行う。										
オフィスアワー	在室時は、適宜対応する。 不在時は、メールなどにより日程調整を行う。										
備考	※実務経験のある教員: 近藤(看護師) 岩本(看護師) 小林(看護師) 岡田(看護師)										

量的研究方法論(Quantitative Approach for Nursing Study)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●比江島 欣慎(HIEJIMA Yoshimitsu)、片山 陽子(KATAYAMA Yoko)、竹内千夏(TAKEUCHI chinatsu)										
授業の目的	ライフサイエンスに関連する各分野において、集団を対象にしたデータ収集をとまなう研究は、エビデンスの導出など当該分野の発展において重要な役割を果たしている。本講義では、定量的データを介して真理を探究する研究(量的研究)の実施ために、研究計画、データ収集・管理、データ分析、結果の公表の各段階において必要となる手続き、疫学・統計学的知識、技術の修得を目指す。										
到達目標	①学問や科学について自分の立場や考えを論理的に説明できる ②データに基づいた因果推論の基本を説明できる ③各種研究デザインの特徴や違いを説明できる ④研究デザインに応じた統計指標の選択し、バイアスを考慮した指標の解釈ができる ⑤データを介して真理を探究するプロセスを実践できる										
授業の進め方	①対面授業に参加し、ノートをとる ②①のノートとオンデマンド教材を使って復習する ③知識確認テストを受ける ④ノートを整理して提出する										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	学問とは？科学とは？【講義・討論】									
	2	科学哲学・因果推論【講義】									
	3	因果推論とランダム化比較試験【講義】									
	4	観察研究のデザイン【講義】									
	5	研究デザインと分析方法【講義】									
	6	研究デザインと分析方法【演習】									
	7	バイアス【講義】									
	8	交絡への対処【講義】									
	9	因果推論を目的とした研究の進め方、論文の読み方【講義】									
	10	研究倫理【講義・討論】									
	11	論文講読1【演習・討論】									
	12	論文講読2【演習・討論】									
	13	尺度開発と因子分析【講義・演習】									
	14	総合演習									
	15	まとめ									
教科書	「ぜんぶ絵で見る医療統計」比江島欣慎(羊土社)										
参考書・参考資料等	適宜、必要な資料を配付する										
事前学習・事後学習	事前学習:指定された資料による予習、適宜教員が指示する準備を行う (第1回については、講義内で討論をするので、「学問とは?」、「科学とは?」、「真理とは?」について自分なりの考えをまとめておくこと) 事後学習:講義・演習・討論の内容をノートに整理する										
他の授業との関連	保健統計学特論(選択)との並行履修を強く望む 看護理論・質的研究方法論の既習内容および保健統計学特論とあわせて特別研究に活かすことのできる科目である										
成績評価方法・基準・フィードバック	到達目標の達成状況を知識確認テスト(約10%)、演習課題(約10%)、講義への参加状況やプレゼン・討議内容(40%)、期末試験もしくはレポート(約40%)で総合的に評価する 評価内容:基本知識が身についているか、科学的に真理を探究する思考ができているか フィードバック:評価結果の確認、疑問・申し立ての期間を設けて対応する										
オフィスアワー	授業の前後、および研究室(要事前連絡)にて対応する										
備考	※実務経験のある教員:片山(看護師) 竹内(看護師)										

地域包括ケア特論 (Advanced of Community based Comprehensive Care)											
必修・選択の区別	必修(実践者養成 コース) 選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●辻よしみ(TSUJI Yoshimi)、片山陽子(KATAYAMA Yoko)										
授業の目的	地域包括ケアが求められる社会情勢や法整備の状況を理解するとともに、現状の地域包括ケアシステムに対して、学生自身の立ち位置から見える課題を探究できる。										
到達目標	①保健・医療・福祉に関する政策の変遷とその背景について説明できる。 ②地域包括ケアシステムの概要と課題を説明できる。 ③保健・慰労・福祉の多職種連携と協働について考究できる。 ④対象者本人や家族が望む地域生活を遅れるために必要な看護マネジメントの意義を考究できる。										
授業の進め方	講義と演習・課題の発表と意見交換を行う。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~2 3~4 5~6 7~8 9~12 13~15	医療・保健・福祉を取り巻く制度の変遷と社会背景について(辻)【講義】 地域包括ケアシステムにおける病院、訪問看護ステーション、地域包括支援センターの役割と機能(片山)【講義】 地域包括的拠点を重視した看護マネジメントの意義(片山)【講義・演習】 保健・医療・福祉の多職種連携と協働の意義と課題(辻)【講義・演習】 地域包括的視点を重視した看護マネジメント事例検討、学生が事例提供(片山・辻)【演習】 地域包括ケアシステムから地域共生社会で果たす看護職の役割と課題事例検討(片山・辻)【演習】									
教科書	特に指定しない										
参考書・参考資料等	授業時に紹介する										
事前学習・事後学習	(事前学習)これまでの看護実践と交互が関連できるように、自己の実践を具体的に語れるように準備しておく、また、事例提供できるように準備しておく(事後学習)実践と講義を統合して自己の課題や探究する研究課題を整理する。										
他の授業との関連	自己の実践課題や研究課題と関連付け、各看護学特論・演習や看護学特別研究に反映させる。										
成績評価方法・基準・フィードバック	原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ評価は受けられません。 成績評価:課題のプレゼンテーション内容と参加度(50%)、課題レポート(50%)により総合的に評価する。 評価基準:討論への積極性、プレゼンテーション力、課題探究力 フィードバック:課題プレゼンは授業ごとにコメントを伝える。取り組みは最終講義で全過程を振り返るとともに疑問質問に対応する。課題レポートを評価しコメントを提示する。										
オフィスアワー	随時対応します										
備考	*実務経験のある教員 片山(保健師・看護師)、辻(保健師・看護師)										

看護政策特論(Nursing Policy)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●井伊 久美子 (Ii Kumiko)										
授業の目的	看護制度と政策との関連を理解し、看護に求められる社会的責務と看護政策推進について探求する。										
到達目標	①看護にとっての政策課題とその変遷について理解する。 ②政策形成過程を理解し、その過程への参画について学ぶ。 ③看護政策実現の具体的な動きを知り、そのインパクトについて学ぶ。										
授業の進め方	講義及び課題についてのプレゼンテーションを行い、学生間及び教員との討論により学習を深める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1~3	医療制度と看護制度の概観【講義】									
	4~6	看護政策課題の成り立ち【講義】									
	7~9	看護政策形成過程例の分析【講義・GW】									
	10~12	看護政策に係るプレーヤーとパワーゲーム【講義・GW】									
	13~15	看護政策の推進策【GW】									
教科書	「私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法」日本看護協会出版会										
参考書・参考資料等	随時紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習：関心のある看護政策課題について情報収集しておく。 事後学習：看護政策推進に関する自身の問題意識を整理し、考察を深める。										
他の授業との関連	地域包括ケア特論、チーム医療特論										
成績評価方法・基準・フィードバック	授業参加度(20%)、プレゼンテーション(30%)、期末レポート(50%) 原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ評価を受けられません。 評価については、疑問等受け付ける期間を設け、評価内容を説明する。										
オフィスアワー	在席時対応										
備考	※実務経験のある教員：井伊(保健師)										

看護教育学特論(Nursing Education)											
必修・選択の区別	選択	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・討論
担当教員	●小野 美穂(ONO Miho)										
授業の目的	看護専門職の継続教育およびキャリア開発に関する諸理論を理解し、看護学教育(基礎教育・継続教育)を展開する場で活用する能力を身につける。										
到達目標	①看護キャリア開発に関する考え方を理解し、自己及び他者のキャリア開発について検討できる。 ②看護実践能力の概念を理解し、能力開発の方法と評価について現状分析できる。 ③成人学習の原理について理解し、看護教育指導者としての支援方法について説明できる。 ④看護専門職のキャリア及び能力開発の考え方をもとに、看護学生や看護職者への教育体制や教育環境の在り方について考えを述べるができる。										
授業の進め方	講義および学生のプレゼンテーションと、それに基づく討論によって学習を深める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	看護学教育の歴史的編変遷と動向									
	2	看護継続教育の現状と課題:「日本と米国の比較」									
	3	仕事に必要な実践能力とは「実践能力の構造と実践知の獲得」									
	4	看護実践能力とは、様々な定義の検討									
	5	看護における臨床判断									
	6	臨床判断や実践の成長を支えるリフレクション									
	7	キャリア開発の概念									
	8	学習と指導に関する理論「学習意欲」「自尊感情」「自己効力感」									
	9	学習と指導に関する理論「役割理論」「組織社会化」「アサーティヴネス」									
	10	教育プログラムの構築方法、目標設定									
	11	学習形態、成人学習者が主体的に学ぶための原理									
	12	集合学習と実践での学習の組み立て									
	13	教育評価に関する考え方									
	14	看護実践の評価指標									
	15	看護実践の評価指標の開発方法									
教科書	特に使用しない										
参考書・参考資料等	授業内容に沿った文献資料を提示する										
事前学習・事後学習	事前学習:文献資料の授業に沿った該当部分を読んでおく 事後学習:授業での文献資料を読み直し、自分の経験を振り返り考えを明確にしておく。										
他の授業との関連	各自の研究課題と関連づけながら看護学教育の理解を深める										
成績評価方法・基準・フィードバック	<成績評価方法> ○授業参加度(30%:積極性、議論の充実と内容の深まり) ○期末レポート(70%:学習内容の理解度、論理一貫性、言語表現の適切性、文章のよみやすさ) <成績評価のフィードバック> 2月末までにコメントを入れて返却する。										
オフィスアワー	メールで質疑応答する。(hiraki@kagawa-puhs.ac.jp)										
備考	※実務経験のある教員:小野(看護師)										

ウィメンズヘルス看護学特論 (Women's Health Nursing)											
必修・選択の区別	選択 必修(助産学)	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●木戸 久美子(KIDO Kumiko) ほか										
授業の目的	女性の生涯にわたる健康を保持増進するための援助や支援方法に関する理論やモデルをもとに、多面的な視点から考察する。ウィメンズヘルス領域において、科学的根拠に基づいた論理的思考ができ、課題を解決する方法としての研究への取組意欲を高めることができる。										
到達目標	①ウィメンズヘルスに関する理論やモデルが説明できる ②研究のエビデンスレベルをもとに、有用な研究を用いて自らの考えを述べることができる。 ③研究論文を読むための基礎的な知識が修得できる。 ④科学論文を批判的講読するためのスキルが修得できる。 ⑤自らの考えや疑問は根拠をもとに述べることができ、他の学生および教員と討論できる。										
授業の進め方	学生は、指導教員のゼミに分かれます。指導教員とともに学生は、提示された文献を読み、研究目的、研究デザイン、分析方法や結果の解釈などについて学修をすすめていきます。授業では、研究論文のクリティークの方法を学び、教員と討論しながら研究をより深く解釈できるようにしていきます。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～4	ウィメンズヘルスに関する理論とモデル概説【講義】 ・女性中心のケア/家族中心のケア ・助産師主導継続ケア ・妊娠期～育児期における愛着形成、母親役割獲得に関連する理論									
	5～8	ウィメンズヘルスケアに関する理論とモデル総合ディスカッション【演習】 ・興味ある論文レビューと発表・討論									
	9～13	ウィメンズヘルスに関連する課題を抽出【演習】 ・CQの設定と論文レビューと現時点での結論を導く									
	14～15	総括【演習】 現時点での課題研究テーマ									
教科書	指定しない。										
参考書・参考資料等	クリティークの方法、質的研究法や量的研究法、混合研究法の解釈に有用な図書は、図書館にも多数ありますので、自分が理解しやすいと思われるものを参考にしてください。										
事前学習・事後学習	【事前学習】教員から提示された論文を授業開始前までに読んでおく。 【事後学習】毎回の授業で講読した論文について、知らなかった研究手法や専門用語などについて調べ、自らの言葉で説明できるようにしておく。										
他の授業との関連	ウィメンズヘルス看護学演習と連動しています。また、課題研究Ⅰの前提になる科目です。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】各授業で学生に対して投げかけた課題に関しては、その時間内にフィードバックする。 【成績評価・基準】授業の目標達成状況をみるルーブリック評価表をもとに形成評価と総括評価から、総合的に評価する。 形成評価80%：課題発表等のルーブリック評価表をもとに、授業での課題への取り組みとその発表等を評価する。 総括評価20%：レポート課題(後日提示)のルーブリック表をもとに評価する。 *原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	質問があれば、事前にゼミ担当教員(4月に周知します)にアポをとってください。 全体的なことに関しては、木戸(研究室20)まで。 kido-k@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	知識や理論に基づいて考える力と主体的に学習する姿勢を培い、意見交換を通して自分の考えを整理・表現し、思考が創造的に発展することを期待する。 実務経験のある教員：木戸(アドバンス助産師)										

ウィメンズヘルス看護学演習 (Seminar in Woman's Health Nursing)											
必修・選択の区別	選択 必修(助産学)	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	●木戸 久美子(KIDO Kumiko) ほか										
授業の目的	自らが取り組むMidwiferyとWomen's Healthに関連する研究テーマを明確にできる。研究デザインと研究手法、研究のまとめ方についての理解を深め、自らの研究において活用できる基盤をつくる。										
到達目標	①MidwiferyとWomen's Healthに関連した自らの研究課題につながるテーマを考察できる。 ②研究デザインによって、研究手法が異なることが説明できる。 ③科学論文が批判的に講読できる。 ④自らの考えや疑問は根拠をもとに述べることができ、他の学生および教員と討論できる。										
授業の進め方	学生は、課題研究テーマに関連する論文を検索し、文献を用意します。事前にその文献を読み、研究目的、研究デザイン、分析方法や結果などについてクリティークしておきます。担当教員と討論しながら、課題研究テーマを掘り下げていきます。この授業は課題研究Ⅰと連動して行う予定です。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～2	クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンへ【講義・演習】 ・クリニカルクエスチョン(ウィメンズヘルス特論のときに抽出したCQ)に対する答え									
	3～6	リサーチクエスチョンを明確にするための論文レビュー【演習】 ・発表と討論 ・リサーチクエスチョンを研究課題テーマにする									
	7～13	研究課題テーマに関する論文をレビュー【演習】 ・発表と討論									
	14～15	総括【演習】 ・研究課題テーマについてレビューした論文をもとに説明する									
教科書	指定しない。										
参考書・参考資料等	質的研究法や量的研究法、混合研究法の解釈に有用な図書は、図書館にも多数ありますので、自分が理解しやすいと思われるものを参考にしてください。										
事前学習・事後学習	【事前学習】 ウィメンズヘルス看護学特論で検討した論文をもとに課題研究テーマに関連する論文をクリティークし、プレゼンの準備をする。 【事後学習】 毎回の授業で講読した論文について、知らなかった研究手法や専門用語などについて調べ、自らの言葉で説明できるようにしておく。										
他の授業との関連	ウィメンズヘルス看護学特論に続く科目である。また、課題研究Ⅰと連動して行う。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】 各授業で学生に対して投げかけた課題に関しては、その時間内にフィードバックする。 【成績評価・基準】 授業の目標達成状況をみるルーブリック評価表をもとに形成評価と総括評価から、総合的に評価する。 形成評価80%：課題発表等のルーブリック評価表をもとに、授業での課題への取り組みとその発表等を評価する。 総括評価20%：レポート課題(後日提示する)ルーブリック表をもとに評価する。 *原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	質問があれば、事前にゼミ担当教員にアポをとってください。 全体的なことに関しては、木戸(研究室20)まで。 kido-k@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	知識や理論に基づいて考える力と主体的に学習する姿勢を培い、意見交換を通して自分の考えを整理・表現し、思考が創造的に発展することを期待する。 実務経験のある教員：木戸(アドバンス助産師)										

助産学概論 (Introduction to Midwifery)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義
担当教員	●木戸久美子(KIDO Kumiko)、植村裕子(UEMURA Yuko)、榮 玲子(SAKAE Reiko)										
授業の目的	助産学の基盤となる助産の考え方および対象の特性に関する基本的理解を深める。助産師の身分と法的責任、機能と役割、国内外の母子保健行政の変遷と現状について学ぶとともに、助産業務に関連する倫理的問題について考察し、助産師としてのアイデンティティを育む基礎とする。										
到達目標	①助産学の基礎となる助産の考え方および女性を中心とした対象の特性について説明できる。 ②助産師の身分と法的責任、機能と役割について説明できる。 ③我が国の母子保健行政及び助産師活動の変遷と現状について説明できる。 ④国際的に認知されている助産師の役割や業務について説明できる。 ⑤助産師業務に関連する倫理的問題や基本的な倫理的対応について説明できる。 ⑥専門職としての助産師に求められている能力や基本的態度について説明できる。										
授業の進め方	専門職としての助産師に求められている能力や助産師としての基本的態度・倫理的な問題に対する考えを深めることを目的に、課題学習、グループ討議、意見交換により学習を深める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	現代の産科医療現場の現状と助産師に求められる役割-医師-助産師のタスクシフト・タスクシェア(木戸)【講義】									
	2	助産の概念:(目指す助産師像についての検討)(榮)【演習・討論】									
	3	助産師の身分と法的責任:保助看法、医療法、その他の関連法規(植村)【講義】									
	4	母性保健の動向と助産の歴史(課題:助産師活動の歴史、展望と課題)(木戸・植村)【演習・討論】(助産学実践概論での伊吹島出部屋学外見学を踏まえて)									
	5	助産師の業務と倫理:周産期における倫理的課題(榮)【演習・演習】									
	6	助産師の業務と倫理:助産師による意思決定支援(榮)【演習・討論】									
	7	専門職の役割:課題学習の発表、専門職能団体の役割(植村)【講義・討論】									
	8	まとめ:我が国および諸外国における助産師教育(木戸)【講義】									
教科書	助産学講座1 助産学概論(医学書院) 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健(医学書院)										
参考書・参考資料等	助産師基礎教育テキスト第1巻 助産概論(日本看護協会出版会) 助産師業務要覧Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(日本看護協会出版会) 国民衛生の動向(直近に発売された 特集号)										
事前学習・事後学習	【事前学習】シラバスの内容に関して、該当する教科書の範囲を読んでおく。 【事後学習】授業テーマに関連する研究論文等を読み、文献の要約をしておく。										
他の授業との関連	助産学概論は、助産実践概論と関連のある科目です。また、すべての助産関連科目の基盤となる科目として位置づけられています。助産師としてのアイデンティティの形成の基礎を築く科目として、設置されています。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】毎回、授業終了後には疑問を確認し、フィードバックは次回の授業前に行う。最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。 【成績評価・基準】形成評価50%:課題発表等のルーブリック評価表をもとに、授業での課題への取り組みとその発表等を評価する。総括評価50%:レポート課題「助産専門職に期待されている役割と必要な能力に関連して」レポートのルーブリック表をもとに評価する。授業の目標達成状況をみるルーブリック評価表をもとに形成評価と総括評価から、総合的に評価する。 *原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	個別に対応する。以下のメールアドレスに要件を書いて事前に予約をとる。 木戸久美子(kido-k@kagawa-puhs.ac.jp)										
備考	*実務経験のある学内教員 木戸久美子(助産師)、植村裕子(助産師)、榮 玲子(助産師)										

助産実践概論(Introduction to Midwifery Practice)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	1.0	時間数	15	授業形態	講義・演習
担当教員	●植村裕子(UEMURA Yuko)木戸久美子(KIDO Kumiko) 筒井邦彦(TSUTSUI Kunihiko)										
授業の目的	日本における助産の歴史と文化を学習し、現代の助産ケアについて考察する。また、在日外国人とのコミュニケーション技法を理解し、在日外国人へのプレコンセプションケアを実践する。周産期における生殖器以外の超音波診断装置を用いたフィジカルイグザミネーションを学ぶ。										
到達目標	①日本における助産の歴史と文化が説明できる。 ②伊吹島における出部屋の風習について説明できる。 ③助産の歴史と文化の学びから助産ケアについて考察できる。 ④やさしい日本語を使ったプレコンセプションケア指導案が作成できる。 ⑤在日外国人のプレコンセプションケアを実践し、自己の課題が見いだせる。 ⑥超音波診断装置を用いたフィジカルイグザミネーションが説明できる。										
授業の進め方	Problem-based LearningおよびTeam-based Learningスタイルをとります。アクティブラーニングによりすすめる授業であり、事前学習は必須です。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	助産の歴史と文化(伊吹島民俗資料館等)									
	2	出部屋の風習【特別講義】									
	3	伊吹島における出部屋の風習(当事者の語り)									
	4	伊吹島における出部屋の風習(出部屋跡地等)									
	5	伊吹島における産育風習(伊吹島民俗資料館等)									
	6	在日外国人のプレコンセプションケア									
	7	やさしい日本語講座【特別講義】									
	8	やさしい日本語を使ったプレコンセプションケア指導案の作成【演習】									
		在日外国人のプレコンセプションケア【演習】(穴吹カレッジ日本語学科)									
		臨床推論のためのフィジカルイグザミネーション(診察技法)(筒井)【講義・演習】									
教科書	医学書院 助産師のためのフィジカルエグザミネーション										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	【事前学習】香川県における助産の歴史と文化、伊吹島における出部屋の風習についてまとめ、提出する。在日外国人のプレコンセプションケアの現状と課題を考察する。 【事後学習】伊吹島での学修後、「助産の歴史と文化の学びから助産ケア」についてレポートする(A4用紙2枚程度)。在日外国人にプレコンセプションケアの実践後、「在日外国人のプレコンセプションケア」についてレポートする(A4用紙2枚程度)。										
他の授業との関連	助産学概論と連動しており、助産実践特論Ⅰ～Ⅳを学ぶ上での基盤となる科目です。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】毎回、授業終了後には疑問を確認し、フィードバックは次回の授業前に行う。最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。 【形成評価60%】授業の目標達成度をみるルーブリック評価表をもとに、毎回の参加度、教員や外部講師とのコミュニケーション等を評価する。 【総括評価40%】レポート①助産の歴史と文化の学びから助産ケア、②在日外国人のプレコンセプションケア *原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	植村(研究室31) 個別に対応可。以下のメールアドレスに要件を書いてアポをとる。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	主体的に学習する姿勢を培い、意見交換を通して自分の考えを整理・表現し、思考が創造的に発展することを期待します。 *実務経験のある教員 植村(助産師)木戸(助産師)筒井(医師)										

周産期学・女性学特論(Perinatology & Women's Health)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	通年	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●塩田 敦子(SHIOTA Atsuko)、香西 祥子(KOUZAI Syouko)										
授業の目的	人間の性と生殖のしくみ、生殖器の形態と機能などを理解する。マタニティサイクルにおける、正常な妊娠、分娩および産褥経過の診断に必要な基礎知識を学修する。また、正常からの逸脱を予測・診断するために必要な妊娠、分娩および産褥の異常に関する基礎知識と検査法を学修する。さらに、女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する疾患及び異常に関する基礎的知識を学び、女性の一生をトータルにサポートすべく女性特有の疾患や身体と心の変化について理解する。特に、周産期におけるメンタルヘルスケア及び妊娠産婦と薬剤について理解を深める。										
到達目標	①妊娠・分娩を中心に、助産実習を前に身につけるべき基礎知識を説明できる。 ②リプロダクションに関わる検査の方法、その解釈ができる。 ③女性の一生に関わる助産師として必要な婦人科学的、女性心身学的知識を概説でき、自分の考えが述べられる。										
授業の進め方	まず妊娠・分娩を中心に、助産実習を前に身につけるべき基礎知識、診断・検査の方法、解釈等について講義を行い、後半で女性の一生に関わる助産師として必要な婦人科学的、女性心身学的な知識について講義する。パワーポイント、プリントを用いて、臨床症例を多数紹介して学生の十分な理解が得られるよう努める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	女性生殖器の形態と機能(発生、解剖・生理)【講義】(塩田)									
	2	妊娠と母体の変化【講義】(塩田)									
	3	胎児の発育と胎盤の形成【講義】(塩田)									
	4	リプロダクションに関する検査①(妊娠の診断、超音波検査)【講義】(塩田)									
	5	妊娠期の異常①(切迫流早産、子宮外妊娠、多胎妊娠など)【講義】(塩田)									
	6	妊娠期の異常と産科合併症(妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病など)【講義】(塩田)									
	7	正常分娩と異常分娩(大量出血、産科危機的出血など)【講義】(塩田)									
	8	産科手術および産科的医療処置【講義】(塩田)									
	9	正常産褥と異常産褥【講義】(塩田)									
	10	リプロダクションに関する検査②(胎児心拍数モニタリング、超音波検査など)【講義】(塩田)									
	11	母子感染と性感染症【講義】(塩田)									
	12	女性のライフステージとヘルスケア【講義】(塩田)									
	13	妊娠・分娩と薬物【講義】(香西)									
	14	産褥期の薬物【講義】(香西)									
	15	女性のライフステージと疾患(子宮と付属器疾患、乳房疾患)【講義】(塩田)									
	16	不妊症・不育症と生殖補助医療【講義】(塩田)									
教科書	助産学講座 2. 3. 6. 7. 8 (医学書院) 助産師基礎教育テキスト 第7巻(日本看護協会出版会)										
参考書・参考資料等	産婦人科診療ガイドライン 産科編2023(社団法人日本産科婦人科学会) 病気がみえる Vol.9 婦人科 第2版(MEDIC MEDIA) 病気がみえる Vol.10 産科 第2版(MEDIC MEDIA) ナーシンググラフィカEX 疾患と看護⑨ 女性生殖器(メディカ出版)										
事前学習・事後学習	事前学習: 講義分野の教科書を一読する。 事後学習: 講義資料を見直し、重要なポイントの理解に努める。										
他の授業との関連	母性看護学を基礎とし、直接妊産婦に関わる実習前の講義になるため予習・復習をして、理解を深めることが望ましい。										
成績評価方法・基準・フィードバック	到達目標の達成状況を、期末筆記試験(100%)にて評価し、出席状況など学ぶ姿勢を含め総合的に成績として評価する。 筆記試験結果および総合評価結果については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。 *原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	特に設定しないが、質問などは授業終了後に受ける。										
備考	* 実務経験のある教員 塩田(医師)、香西(薬剤師)										

新生児学・乳幼児学特論 (Neonatology & Infant studies)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	通年	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	日下 隆 (KUSAKA Takashi)、●小谷野耕佑 (KOYANO Kosuke)、中村信嗣 (NAKAMURA Shinji)、飛矢純子 (HIYA Junko)										
授業の目的	<p>新生児期の疾患の特徴、病態・診断・治療を学び、新生児から思春期までの成長・発達の特徴について理解する。さらに、ハイリスク新生児(未熟児・低出生体重児など)の病態及びNICUIにおける治療とケア及び新生児・乳児期の成長発達に関する知識を学修する。</p> <p>また、実技実習として、日本周産期・新生児医学会で行われている新生児蘇生法(NCPR)普及事業での、新生児蘇生法「専門コース」の取得を目指す。</p>										
到達目標	<p>① 新生児・乳幼児の生理学的特性を理解し、その知識に基づいて新生児・乳幼児の診察ができ、家族への適切な支援について説明できる。</p> <p>② 新生児から乳幼児期までの成長・発達の特徴について理解し、助産師としての健康支援およびケアについて説明できる。</p> <p>③ 異常新生児(未熟児・低出生体重児など)の治療ケアについて説明できる。</p> <p>④ 新生児蘇生法を習得できる。</p>										
授業の進め方	<p>まず新生児について、生理学的特徴を学び、知識に基づいた診察法を理解する。また、生理学的特徴に関連して発症する様々な病気を学び、将来その早期発見、早期対応に寄与できるよう知識を深める。新生児期以降の乳幼児期については発育の評価法について学び、乳幼児健康診断の実際について理解する。以上についてパワーポイントを用いた講義形式にて行う。新生児蘇生法については講習会に参加し、講義・実技演習・筆記試験等により、資格取得を目指す。</p>										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	正常新生児 総論 (小谷野)【講義】									
	2	正常新生児 新生児の生理 (小谷野)【講義】									
	3	正常新生児 新生児の診察 (小谷野)【講義】									
	4	ハイリスク新生児 新生児の呼吸、循環 (小谷野)【講義】									
	5	ハイリスク新生児 新生児の代謝、神経 (小谷野)【講義】									
	6	ハイリスク新生児 新生児の栄養、母乳 (小谷野)【講義】									
	7	乳幼児 乳幼児の発育発達と健康診査① (小谷野)【講義】									
	8	乳幼児 乳幼児の発育発達と健康診査② (小谷野)【講義】									
	9	ハイリスク新生児・乳幼児の治療とケア 総論 (飛矢)【講義】									
	10	NICUIにおけるハイリスク新生児の治療とケア (飛矢)【講義】									
	11	障がいをもつ新生児及び乳幼児のケア (飛矢)【講義】									
	12	新生児蘇生法 講義① (小谷野、中村)【講義】									
	13	新生児蘇生法 講義② (小谷野、中村)【講義】									
	14	新生児蘇生法 演習① (日下、小谷野、中村)【シミュレーション実習】									
	15	新生児蘇生法 演習② (日下、小谷野、中村)【シミュレーション実習】									
教科書	<p>助産学講座8助産診断・技術学Ⅱ新生児期・乳幼児期(医学書院)</p> <p>助産師基礎教育テキスト第7巻(日本看護協会出版会)</p> <p>日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト(メジカルビュー)</p>										
参考書・参考資料等	適宜紹介する										
事前学習・事後学習	<p>事前学習:看護基礎教育で学んだ新生児乳幼児に関する知識を復習して講義に臨む。</p> <p>新生児蘇生法については、香川県周産期医療従事者研修会等で行われる新生児蘇生法講習会に参加し実技を含めて学修します。事前学習が重要です。合格すれば、日本周産期・新生児医学会後任の専門コース修了認定証を得ることができます。</p>										
他の授業との関連	助産実践特論Ⅲ、助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと連動しています。										
成績評価方法・基準・フィードバック	<p>課題レポートにより評価する(100%)。</p> <p>*原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ、評価を受けられません。</p>										
オフィスアワー	随時対応する。										
備考											

助産実践特論 I (Midwifery Practice I (Antenatal Care))											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●木戸 久美子(KIDO Kumiko)										
授業の目的	妊娠による生理的变化と健康状態の診断、身体的・心理社会的なハイリスク状態について理解し、妊娠期の助産診断および助産ケア、医療的介入について学修する。										
到達目標	①妊婦の生理的变化と健康状態について説明できる。 ②妊娠期の身体的、心理社会的なリスクや合併症について説明できる。 ③妊娠期の助産診断について説明できる。 ④妊婦の妊娠経過に応じた情報収集、アセスメント、助産診断ができる。 ⑤妊婦の妊娠経過に応じた助産ケア計画が立案できる。										
授業の進め方	・unfolding case study(展開事例)を用いて助産過程を展開する。 ・個人で助産過程を展開し、発表・討議する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	妊娠期の助産師国家試験問題(1回)【講義】 紙上事例の助産過程の展開									
	2~5	①妊娠初期(2~5回) 情報の整理、アセスメント、助産診断【演習】 アセスメント、助産診断の発表、まとめ【発表・講義】									
	6~9	②妊娠中期(6~9回) 情報の整理、アセスメント、助産診断【演習】 アセスメント、助産診断の発表、まとめ【発表・講義】									
	10~13	③妊娠後期(10~13回) 情報の整理、アセスメント、助産診断【演習】 アセスメント、助産診断の発表、まとめ【発表・講義】									
	14~15	妊娠期の助産計画(14~15回)【演習・発表・講義】									
教科書	助産学講座 母子の健康科学(医学書院) 助産学講座 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期(医学書院) 助産師基礎教育テキスト 第4巻 妊娠期の診断とケア(日本看護協会出版会) 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア(日本看護協会出版会) 助産師のためのフィジカルイグザミネーション第2版(医学書院) 実践マタニティ診断第5版(医学書院)										
参考書・参考資料等	産婦人科診療ガイドライン 産科編2023(社団法人日本産科婦人科学会) 写真でわかる助産技術アドバンス(インターメディカ) 助産業務ガイドライン2019(公益社団法人日本助産師会)										
事前学習・事後学習	【事前学習】事例を読み、分からないことを調べる。事例の情報から正常な経過および正常を逸脱した経過を学習する。 なお、紙上事例の助産過程の展開例について、初期、中期、末期ごとに各自で取り組み、発表に備える。 【事後学習】事例の情報・アセスメント・助産診断した内容を省察する。実習時に活用できる資料としてまとめる。										
他の授業との関連	助産学概論、助産実践概論を基盤に助産実践特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連動している。周産期学・女性学特論と関連している。助産実践特論で得られた知識を基に、助産実践演習では助産技術を習得し、助産学実習へとつながる。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】講義・演習後には学習内容を確認し、個別にフィードバックし、課題を提示する。 【成績評価方法・基準】到達目標の達成を旨とし、形成的評価30%:毎回の授業での課題の発表等のルーブリック表をもとに評価する。総括評価70%:妊娠期の助産診断学に関連する国家試験問題形式で試験を行う。形成的評価と総括評価から授業の目標達成度をみるルーブリック評価表をもとに最終評価を行う。 *原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	質問があれば、メールでアポをとってから研究室にきてください。 木戸(研究室20) kido-k@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	*実務経験のある教員 木戸(助産師)、植村(助産師)										

助産実践特論Ⅱ (Midwifery PracticeⅡ (Labour & Delivery Care))											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義
担当教員	●植村 裕子 (UEMURA Yuko) 木戸 久美子 (KIDO Kumiko) 松下 有希子 (MATSUSHITA Yukiko)										
授業の目的	分娩期の生理的変化と健康状態の診断、分娩期の異常について理解し、分娩期の助産診断および助産ケア、医療的介入について学修する。										
到達目標	① 正常な分娩経過と助産ケアについて説明できる。 ② 分娩期の異常と助産ケアについて説明できる。 ③ 分娩期の助産診断について説明できる。 ④ 産婦の分娩経過に応じた情報収集、アセスメント、助産診断ができる。 ⑤ 産婦の分娩経過に応じた助産ケア計画が立案できる。										
授業の進め方	・特別講義では、臨床で実践されている内容を中心に講義を展開する。 ・unfolding case study (展開事例)を用いて助産過程を展開する。 ・個人で助産過程を展開し、発表・討議する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	分娩期の助産診断、助産師国家試験問題の傾向【講義】(植村)									
	2	分娩開始の予測と診断、分娩の3要素(4要素)【特別講義】									
	3	陣痛の異常と助産ケア【特別講義】									
	4	分娩期の異常①産科危機的出血、産科的医療処置【特別講義】(森産婦人科医院)									
	5	分娩期の異常②硬膜外麻酔分娩【特別講義】(森産婦人科医院)									
	6	分娩期の助産ケア①肩甲難産、弛緩出血、産科DIC【特別講義】									
	7	分娩期の助産ケア②回旋異常、分娩誘発・促進【特別講義】 紙上事例の助産過程の展開①分娩第1期(松下)									
	8	情報の整理、アセスメント、助産診断【演習】									
	9	アセスメント、助産診断の発表、まとめ【発表・講義】 紙上事例の助産過程の展開②分娩第2・3期(松下)									
	10	情報の整理、アセスメント、助産診断【演習】									
	11	アセスメント、助産診断の発表、まとめ【発表・講義】 紙上事例の助産過程の展開③分娩第4期(産後2時間)(松下)									
	12	情報の整理、アセスメント、助産診断【演習】									
	13	アセスメント、助産診断の発表、まとめ【発表・講義】									
	14	分娩期の助産計画【発表・講義】(松下)									
	15	分娩期の助産計画【発表・講義】(松下)									
教科書	助産学講座 母子の健康科学(医学書院) 助産学講座 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期(医学書院) 助産師基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア(日本看護協会出版会) 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア(日本看護協会出版会) 助産師のためのフィジカルイグザミネーション第2版(医学書院) 実践マタニティ診断第5版(医学書院)										
参考書・参考資料等	産婦人科診療ガイドライン 産科編2023(社団法人日本産科婦人科学会) 写真でわかる助産技術アドバンス(インターメディカ)										
事前学習・事後学習	【事前学習】事例を読み、分からないことを調べる。事例の情報から正常な経過および正常を逸脱した経過を学習する。 【事後学習】事例の情報・アセスメント・助産診断した内容を省察する。実習時に活用できる資料としてまとめる。										
他の授業との関連	助産学概論、助産実践概論を基盤に助産実践特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連動している。周産期学・女性学特論、新生児学・乳幼児学特論と関連している。助産実践特論で得られた知識を基に、助産実践演習では助産技術を習得し、助産学実習へとつながる。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【成績評価方法・基準】到達目標の達成を旨とし、形成的評価30%(学習姿勢、講義・演習の参加度)、総括的評価70%(終講試験)として、総合的に評価する。 【フィードバック】講義・演習後には学習内容を確認し、個別にフィードバックし、課題を提示する。最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。 *原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	植村(研究室31)事前にメールで連絡をして、日時の予約を調整してください。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	*実務経験のある学内教員 木戸(助産師)、植村(助産師)、松下(助産師)										

助産実践特論Ⅲ (Midwifery Practice Ⅲ (Postpartum & Neonatal Care))											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●植村裕子 (UEMURA Yuko)										
授業の目的	産褥期・新生児期の生理的变化と健康状態の診断、身体的・心理社会的なハイリスク状態や合併症について理解し、母子に対する助産診断および助産ケア、医療的介入について学修する。										
到達目標	①産褥期・新生児の生理的变化と健康状態について説明できる。 ②産褥期・新生児期の身体的、心理社会的なリスクや合併症について説明できる。 ③産褥期・新生児期の助産診断について説明できる。 ④産褥期・新生児の経過に応じた情報収集、アセスメント、助産診断ができる。 ⑤産褥期・新生児の経過に応じた助産ケア計画が実践できる。										
授業の進め方	・unfolding case study (展開事例) を用いて助産過程を展開し、健康診査のシミュレーション・デブリーフィングを行う。 ・個人で助産過程を展開し、発表・討議する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	産褥期・新生児期の助産診断、助産師国家試験問題の傾向【講義】 紙上事例の助産過程の展開 《産褥1日・日齢1日》 情報の整理、アセスメント、助産診断、計画【演習】									
	2	情報の整理、アセスメント、助産診断、計画【演習】									
	3	アセスメント、助産診断、計画の発表、まとめ【発表・講義】									
	4	産褥1日・日齢1日の健康診査【演習】									
	5	《産褥3日・日齢3日》 情報の整理、アセスメント、助産診断、計画【演習】									
	6	アセスメント、助産診断、計画の発表、まとめ【発表・講義】									
	7	産褥3日・日齢3日の健康診査【演習】									
	8	《産後2週間健康診査》 情報の整理、アセスメント、助産診断、計画【演習】									
	9	アセスメント、助産診断の発表、まとめ【発表・講義】									
	10	産後2週間の健康診査【演習】									
	11	母乳育児支援の実践【特別講義】									
	12	母乳育児支援【演習】									
	13	出生直後のケアの実践【特別講義】									
	14	出生直後のケア【演習】									
	15										
教科書	助産学講座 母子の健康科学 (医学書院) 助産学講座 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 (医学書院) 助産学講座 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 (医学書院) 助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア (日本看護協会出版会) 助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア (日本看護協会出版会) 助産師のためのフィジカルイグザミネーション第2版 (医学書院) 実践マタニティ診断第5版 (医学書院)										
参考書・参考資料等	産婦人科診療ガイドライン産科編2023 (日本産婦人科学会/日本産婦人科医会) 新生児学入門 (医学書院)、写真でわかる助産技術アドバンス (インターメディカ)										
事前学習・事後学習	【事前学習】事例を読み、分からないことを調べる。事例の情報から正常な経過および正常を逸脱した経過を学習する。 【事後学習】事例の情報・アセスメント・助産診断した内容を省察する。実習時に活用できる資料としてまとめる。										
他の授業との関連	助産学概論、助産実践概論を基盤に助産実践特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連動している。周産期学・女性学特論、新生児学・乳幼児学特論と関連している。助産実践特論で得られた知識を基に、助産実践演習では助産技術を習得し、助産学実習へとつながる。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【成績評価方法・基準】到達目標の達成を旨とし、形成的評価30% (学習姿勢、講義・演習の参加度)、総括的評価70% (終講試験) として、総合的に評価する。 【フィードバック】講義・演習後には学習内容を確認し、個別にフィードバックし、課題を提示する。最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。 * 原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	植村 (研究室31) 事前にメールで連絡をして、日時の予約を調整してください。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	産褥期・新生児期の対象者に安全で満足のいく助産ケアの提供のために、科学的根拠に基づいた助産実践が行えるための基礎的能力を身につけることを目指します。 * 実務経験のある学内教員 植村 (助産師)										

助産実践特論Ⅳ (Midwifery PracticeⅣ(Lifecycle Women's Health Care))											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	通年	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義、演習
担当教員	●木戸久美子(KIDO Kumiko)										
授業の目的	女性のライフサイクル各期に関する健康課題を明確にし、セルフケア能力を高める支援技法を修得する。リプロダクティブヘルス/ライツ、不妊、避妊、人工妊娠中絶、性感感染症、ウイメンズヘルスに関する指導を実践するための知識と技術を修得する。										
到達目標	①周産期における個別保健指導案が作成できる。 ②周産期における個別保健指導が実践できる。 ③女性ライフサイクル各期における健康教育が企画できる。 ④女性ライフサイクル各期における健康教育の実践ができる。 ⑤受胎調節実法の特徴を知り、ライフサイクル各期に合った方法を用いて実践できる。										
授業の進め方	周産期における保健指導は、助産学実習時に行う。ライフサイクル各期における健康教育は学生による実践ができるように計画する。地域で活動している助産師からの特別講義を設ける。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～7	【ウイメンズヘルス個別指導】 1.妊娠期編の保健指導案および媒体の作成 2.産褥および新生児期編の保健指導案および媒体の作成 3.個別保健指導の実施(ロールプレイを含む)									
	8～13	【ウイメンズヘルス集団指導】 1.プレコンセプションヘルスの集団指導案および媒体の作成(小学生/高校生) 2.成熟期(大学生) 3.更年期・老年期 4.集団指導の実際(ロールプレイを含む)									
	14～15	【特別講義】 地域で活動している助産師 【特別講義】 * 受胎調節についての試験を実施する									
教科書	助産学関連の授業で使用した教科書等										
参考書・参考資料等	助産師のための性教育実践ガイド(医学書院)、家族計画指導の実際 第2版(医学書院)、新GATHERガイド(日本家族計画協会) その他、文献検索を行い、最新の知見を収集すること。										
事前学習・事後学習	【事前学習】 ①「リプロダクティブヘルス/ライツ」、②「家族計画の歴史、意義とその背景」、③「プレコンセプションケア」、④「母体保護法・関連法規」、⑤「インフォームドチョイスと避妊指導のコツ "GATHER法"」、⑥「受胎調節法」について文献を検索し、自らの意見をまとめておく。 個別および集団教育指導案を作成し、実践の準備しておく。 【事後学習】 個別および集団教育指導案を作成後、実践できた場合は、フィードバックをもとに指導案を修正し次回の指導に活かせるように準備をする。										
他の授業との関連	助産実践特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと相互に関連しています。個別指導案(各自が作成したもの)は1冊にまとめ、助産学実習Ⅱ・Ⅲで受け持ち対象に指導を行う際に活用する。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】 指導案については、助産学実習Ⅲで活用するため、個別性とのフィードバックは、助産学実習Ⅲの担当教員より行う。授業で行う演習等に対するフィードバックは随時行う。 【形成評価50%】 授業目標を反映したルーブリック評価(発表・討議)をもとに評価する。 【総括評価50%】 終講試験(受胎調節実地指導員の資格取得に関する内容は試験を行う) * 原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	木戸(研究室20) 以下のメールアドレスに要件を書いてアポをとってから研究室まできてください。 kido-k@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	受胎調節実地指導員の資格取得に必要な科目。資格取得は修了後に自己申請の必要あり。 * 実務経験のある学内教員 木戸久美子(助産師)										

助産実践演習 I (Exercise for Midwifery Competencies I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	通年	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	●木戸久美子(KIDO Kumiko)、植村裕子(UEMURA Yuko) ほか										
授業の目的	妊娠期・分娩期・産褥・新生児期までの基礎的知識・技術に基づき、マタニティケア能力を修得する。										
到達目標	①分娩期に必要な助産ケア技術(内診を含む診察技術等)が習得できる。 ②分娩介助モデルを用いて、経膈分娩介助ができる。 ③助産学実習施設での分娩介助方法が理解できる。 ④実習前の客観的臨床能力評価により、助産学実習に向けて学習目標に準じた一定の知識・技能が習得でき、自己の課題を明確にできる。 ⑤超音波診断装置の取扱いができ、産科領域に必要なフィジカルイグザミネーションが説明できる。										
授業の進め方	①分娩期の助産ケアシミュレーション 2年生と共に分娩期の助産ケアシミュレーションを行う。プリーフィン・シミュレーション・デプリーフィンを行う。 ②分娩介助技術(基本) 分娩期に必要な技術を演習する。 ③分娩介助技術(応用) 助産学実習施設での分娩介助方法を習得する。 ④実習前の客観的臨床能力試験 実習前に一定の知識・技能を保証するため、助産実践能力の習熟度を確認する。試験に合格した学生は、助産学実習 I にすすむことができる。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	①分娩期の助産ケアシミュレーション【演習】(1,2年生合同演習) 陣痛発来の主訴で来院した産婦への対応									
	2	分娩の進行を予測し、根拠とともに報告									
	3	分娩進行者の観察									
	4	②分娩介助技術【演習】 産痛緩和									
	5	分娩介助									
	6	出生直後の新生児ケア									
	7	③東洋医学を用いたケア 助産技術に応用する鍼灸:分娩期【特別講義】(松尾)									
	8	助産技術に応用する鍼灸:産褥期【特別講義】(松尾)									
	9	④実習前の客観的臨床能力試験【試験】 分娩介助技術									
	10	客観的臨床能力試験後のリフレクション									
	11	⑤分娩介助【演習】(1,2年生合同演習) 分娩介助方法の実際									
	12	分娩介助方法の実際									
	13	分娩介助方法の課題									
	14	⑥超音波診断装置によるフィジカルイグザミネーション 超音波診断装置の使用法【講義・演習】(大栗)									
	15	妊娠期の超音波検査【講義・演習】(大栗)									
教科書	助産実践特論 I～IIIで使用した教科書										
参考書・参考資料等	適宜紹介する										
事前学習・事後学習	【事前学習】毎回、助産実践特論 I～IIIで学習した内容および看護基礎教育(基礎看護技術、母性看護技術)で学習した内容を復習し、学修内容の教科書を熟読する。 【事後学習】演習内容を振り返り、自己の課題を明確にする。到達目標が達成できない場合は、授業時間以外で演習する。										
他の授業との関連	助産学概論、助産実践概論を基盤に助産実践特論 I、II、IIIと連動している。助産実践特論で得られた知識を基に、助産実践演習では助産技術を習得し、助産学実習の基礎となる。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【成績評価方法・基準】到達目標の達成を旨とし、形成的評価40%(学習姿勢、演習の参加度)、実習前の客観的臨床能力試験60%として総合的に評価する。 【フィードバック】演習後には学習内容を確認し、個別にフィードバックし、課題を提示する。 *原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	質問があれば、メールでアポをとること 木戸(研究室20) kido-k@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	演習では、自ら技術習得を目指し、主体的な行動が望まれる。演習内容に応じて、担当教員および学生間では連絡・相談・報告ができることを期待している。 目的、到達目標を達成するために、実習室にある分娩介助モデル、シミュレーター教材、バイタルサイン人形を用いて、時間外の時間を活用して自主的に学習する。なお、実習室を使用する場合は事前に予約を取り、使用する。 *実務経験のある学内教員 木戸(助産師)、植村(助産師)										

助産実践演習Ⅱ (Exercise for Midwifery Competencies Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	1.0	時間数	30	授業形態	演習
担当教員	●植村 裕子 (UEMURA Yuko) 木戸 久美子 (KIDO Kumiko) 松下 有希子 (MATSUSHITA Yukiko)										
授業の目的	助産実践特論および助産学実習で学んだ助産技術をさらに深めるため、助産実践に応用できる様々な援助技法について修得する。										
到達目標	① マタニティサイクル各期、育児期までの助産ケアについて具体的に述べるができる。 ② 助産学実習を通して獲得した助産実践が確実に実施できる。 ③ 分娩介助した1事例を省察し、シミュレーションにて再現できる。 ④ シミュレーション後のデブリーフィングにより自己の課題を明確にできる。 ⑤ 修了前の客観的臨床能力評価により、現時点での臨床能力と新人助産師に求められる臨床能力のギャップが確認できる。										
授業の進め方	① 分娩期の助産ケアシミュレーション 1年生と共に分娩期のシミュレーションを行う。ブリーフィング・シミュレーション・デブリーフィングを行う。 ② 分娩介助演習 助産学実習Ⅱでの分娩介助方法を省察し、自己の課題を見出す。 ③ 分娩期シミュレーション 助産学実習Ⅱ・Ⅲで経験した事例からシナリオを作成し、シミュレーションを行う。ブリーフィング・シミュレーション・デブリーフィングを行う。 ④ 修了前の客観的臨床能力試験 国家試験終了後に客観的臨床能力試験を行い、現時点での臨床能力と新人助産師に求められる臨床能力のギャップを確認し、その課題に取り組むことで新人助産師教育へのシームレスな移行を目指す。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	① 分娩期の助産ケアシミュレーション【演習】(1、2年生合同演習) ブリーフィング、シミュレーション、デブリーフィング									
	2	陣痛発来の主訴で来院した産婦への対応									
	3	分娩の進行を予測し、根拠とともに報告									
	4	分娩進行者の観察									
	5	② 分娩介助【演習】(1、2年生合同演習) 分娩介助方法の省察									
	6	分娩介助方法の実際									
	7	分娩介助方法の実際									
	8	分娩介助方法の課題									
	9	③ 分娩期シミュレーション【演習】 助産学実習Ⅱで分娩介助した1事例の省察									
	10	シミュレーションシートの作成									
	11	シミュレーション									
	12	デブリーフィング									
	13	④ 修了前の客観的臨床能力評価【試験】 出生直後の新生児の観察									
	14	分娩後1時間の産婦の観察									
	15	客観的臨床能力評価後のリフレクション									
教科書	助産実践に関連する教科書全て										
参考書・参考資料等	適宜紹介する										
事前学習・事後学習	事前学習：演習項目に関する事前学習をする。助産学実習で経験した現象を研究論文、ガイドライン、教科書等を基に意味づけをする。 事後学習：演習後も自己の課題を明確にして、獲得した助産実践が確実に実施できるように技術演習を重ねる。										
他の授業との関連	これまでで学修したすべての科目および助産学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学修した内容を基盤に演習をすすめる。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【成績評価方法・基準】到達目標の達成を旨とし、分娩期の助産ケアシミュレーション30%、分娩介助演習30%、分娩期シミュレーション40%とし、それぞれルーブリック評価を行う。評価の視点は、事前学習、学習成果、主体的な行動、学生間の協働とし、総合的に評価する。 【フィードバック】演習後には学習内容を確認し、個別にフィードバックする。 *原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	植村(研究室31)事前にメールで連絡をして、日時の予約を調整してください。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	自身の助産実践能力を確かな技術とするためにも、これまでの実習での経験に基づき、主体的に演習に取り組むことを期待します。学生間での連携を密にして、演習に臨んでください。 目的、到達目標を達成するために、実習室にある分娩介助モデル、シミュレーター教材、バイタルサイン人形を用いて、時間外の時間を活用して自主的に学習する。なお、実習室を使用する場合は事前に予約を取り、使用する。実務経験のある教員 植村(助産師)、木戸(助産師)、松下(助産師)										

地域母子保健活動論 (Maternal and Child Health in Community)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●榮 玲子 (Sakae Reiko)、大野香織 (OONO Kari)、木戸久美子 (Kido Kumiko) 他										
授業の目的	香川県における母子保健制度や母子保健施策および課題について学修する。さらに、香川県の母子を取り巻く環境と地域の特性を理解し、地域での子育て支援やその方法、社会資源について学修する。母子保健活動の現状について、地域で生活する母子とその家族の健康を保持増進するために行われている活動に関する講義・演習を通して、現状の課題とそれに対する具体的な方策を考察する。										
到達目標	①地域母子保健活動の目的・目標が理解できる。 ②地域母子保健の現状を明らかにするために必要な情報を収集し、分析・整理できる。 ③地域診断に基づいて地域母子保健の健康課題を明確化して、課題解決のための支援についてプレゼンテーションできる。 ④地域母子保健の健康課題に対応する母子保健行政の概要及び主な制度について理解できる。 ⑤乳幼児期の成長・発達について理解し、地域で生活する乳幼児とその母親の健康課題への支援について考察できる。										
授業の進め方	講義により地域母子保健に関する基礎的知識を理解する。地域診断演習により香川県内の母子保健の現状や推移についてアセスメントし、健康課題を抽出して考察を深める。また、香川県の母子保健の動向と課題についてプレゼンテーションを実施し、地域で生活する乳幼児とその母親へのより良い支援方法や活動展開についてディスカッションを行う。さらに、特別講義にて香川県及び高松市の母子保健行政や制度について理解を深める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	地域母子保健の目的・意義 (榮)【講義】									
	2	地域母子保健の動向と保健対策 (榮)【講義】									
	3	母子保健に関するデータ収集と活用方法 (榮)【講義・演習】									
	4	母子保健統計資料の分析とアセスメント(榮)【演習】									
	5	母子保健統計資料の分析とアセスメント(榮)【演習】									
	6	乳幼児の成長・発達(大野)【講義・演習】									
	7	乳幼児の成長・発達(大野)【講義・演習】									
	8	民間における子育て、家族支援活動(NPOの子育て支援活動)1(草薙)									
	9	民間における子育て、家族支援活動(NPOの子育て支援活動)2(草薙)									
	10	高松市の母子保健行政と現状(特別講義)【講義】(高松市保健センター)									
	11	高松市の母子保健行政の実際【演習】(高松市保健センター)									
	12	香川県の母子保健の動向と課題 (榮)【プレゼンテーション】									
	13	香川県の母子保健行政と現状(特別講義)【講義】									
	14	地域における子育て支援活動の実際 (榮)【演習・討議】									
	15	海外の母子保健活動の現状と課題 (木戸)【GW・討議】									
		総括									
教科書	助産学講座⑨地域母子保健・国際母子保健(医学書院)										
参考書・参考資料等	国民衛生の動向:最新版(厚生統計協会) かがわの母子保健(香川県健康福祉部HP)										
事前学習・事後学習	【事前学習】 ・各回の授業テーマに関連する教科書の範囲を読んでおく。 ・「かがわの母子保健」についてアクセスし確認する。 ・乳幼児の成長発達について事前に学習しておく。 【事後学習】 授業のテーマに関連する母子保健関連の論文を読み、まとめておく。										
他の授業との関連	すべての助産関連科目と関連しており、地域包括ケア実習Ⅰ・Ⅱの基盤となる科目として設定されています。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】毎回、授業終了後には疑問を確認し、フィードバックは次回の授業前に行う。最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。 【成績評価・基準】形成評価50%:課題発表等のルーブリック評価表をもとに、授業での課題への取り組みとその発表等を評価する。総括評価50%:レポート課題「地域母子保健の課題と取り組みに関して」レポートのルーブリック表をもとに評価する。授業の目標達成状況をみるルーブリック評価表をもとに形成評価と総括評価から、総合的に評価する。 *原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	個別に対応する。以下のメールアドレスに要件を書いて事前に予約をとる。 木戸(kido-k@kagawa-puhs.ac.jp)										
備考	*実務経験のある教員 榮 玲子(助産師)、木戸久美子(助産師)										

助産管理 (Midwifery Management)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	後期	単位数	2.0	時間数	30	授業形態	講義・演習
担当教員	●植村 裕子 (UEMURA Yuko) 松尾 真理 (Matsuo Mari) 松下 有希子 (MATSUSHITA Yukiko) ほか										
授業の目的	助産管理の必要性、管理の進め方など管理に必要な基礎的能力を学び、助産師の業務範囲と法的責任・倫理問題について学修する。助産におけるマネジメントの実際についての講義を基に、助産業務管理におけるリスクマネジメントの実際について学び、医療事故の中でも多いとされる産科医療事故の特徴と助産行為の裁量性と責任について考察する。また、病院(産科病棟)・助産所の管理者から、病院・助産所における助産管理の実際について学び、施設における助産師の役割と他部門との連携の実際について理解を深める。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 助産管理の概念や助産管理の基本的な事項、関連法規について説明できる。 ② 母子保健サービスの充実や助産業務の改善に必要な管理の在り方について説明できる。 ③ 施設における災害管理・危機管理の実際について説明できる。 ④ 地域における助産師活動と家庭分娩の管理の実際について説明できる。 ⑤ 専門職の役割と機能について、助産師のキャリア発達を通して説明できる。 ⑥ 実習施設の現状から助産管理の課題について考察できる。 										
授業の進め方	主に講義形式で授業を行うが、グループワーク、プレゼンテーション、討議などを取り入れる。施設の助産管理の在り方については、病院及び助産所の管理者からの講義及び助産学実習ⅠⅡでの学びを基に、助産管理について意見交換を行い、助産学実習Ⅳでの自己の課題を明確にできるように進める。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1	助産管理の概念、助産師国家試験問題の傾向(植村)【講義】									
	2	関連法規と助産師の法的責任と義務(松下)【講義】									
	3	周産期管理システムとリスク管理:周産期のリスクマネジメント(松下)【講義】									
	4	周産期管理システム、医療事故とリスクマネジメント(松下)【講義】									
	5	病院における助産管理:産科病棟・外来における助産管理の実際と課題【特別講義】									
	6	助産所の助産管理:妊婦・胎児(松尾)【講義・演習】(ぼっこ助産院)									
	7	助産所の助産管理:産婦・胎児(松尾)【講義・演習】(ぼっこ助産院)									
	8	助産所の助産管理:褥婦・新生児(松尾)【講義・演習】(ぼっこ助産院)									
	9	助産所の助産管理:助産所における管理の課題(松尾)【講義】(ぼっこ助産院)									
	10	地域における助産師活動(松尾)【講義・演習】(ぼっこ助産院)									
	11	家庭分娩の管理の実際(松尾)【講義・演習】(ぼっこ助産院)									
	12	専門職の役割と機能:助産師のキャリア発達(松尾)【講義・討論】(ぼっこ助産院)									
	13	母子のための包括ケア:産後ケア(松尾)【講義】(ぼっこ助産院)									
	14	病院・助産所の管理・運営の課題/課題発表(松尾)【討論】(ぼっこ助産院)									
	15	災害時の母子支援【特別講義】									
教科書	助産学講座10 助産管理(医学書院)										
参考書・参考資料等	助産師業務要覧 第3版 基礎編(日本看護協会出版会) 助産師業務要覧 第3版 実践編(日本看護協会出版会) 助産所開業マニュアル 2021(日本助産師会出版) その他、適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	事前学習:看護基礎教育で学修した看護管理に関する内容を復習する。 事後学習:助産学実習Ⅳの課題探求に繋がられるようにする。										
他の授業との関連	助産学実習Ⅳと連動しての課題探求については、自己の課題を明確にして主体的に学ぶ。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【成績評価方法・基準】2~4回20%、6~14回50%、終講試験30%で評価する。グループ討議や意見交換での授業への参加状況、学習課題のプレゼンテーションと討議により、総合的に評価する。 【フィードバック】各回の授業に対する質問は、その時間内にフィードバックする。最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。 *原則として総授業数の3分の2以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	植村(研究室31) 個別に対応する。以下のメールアドレスに要件を書いて事前に予約をとる。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	*実務経験のある教員 松尾(助産師)、植村(助産師)、松下(助産師)										

助産学実習 I (Clinical Midwifery Training I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	前期	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担当教員	●木戸 久美子(KIDO Kumiko) 植村 裕子(UEMURA Yuko) 松下 有希子(MATSUSHITA Yukiko)										
授業の目的	マタニティサイクルにある対象の助産師としての実践と態度について学ぶ。特に、マタニティケアを実践する上で重要になる助産経過診断と健康生活診断の重要性について理解し、Woman-centered careを実践するための基礎的能力を修得する。										
到達目標	①分娩の直接介助者と間接介助者の役割と態度が理解できる。 ②分娩期における助産師の実践から、助産診断過程が理解できる。 ③分娩期における助産実践のための連絡・報告・相談の仕方が説明できる。 ④対象者にとって満足のいく出産経験を実現するための助産実践の在り方が説明できる。 ⑤助産学実習Ⅱに入るまえの自己の課題を明確にできる。										
授業の進め方	2025年度大学院実践者養成コース(助産学)実習要項 参照 助産学実習Ⅱで配置される実習施設において実習を行う。 実習施設:香川県立中央病院、高松赤十字病院、四国こどもとおとなの医療センター等										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	実習前	オリエンテーションの実施									
	実習中	実習開始前にオリエンテーション(学内)を実施し、実習目的・目標、方法を理解する。 実習に関する自己の準備状況を確認、実習目標を達成するための行動計画を各自で立案する。 各病院において、指導助産師のシャドウイングにて、直接介助者の視点および間接介助者の視点から分娩を見学する(分娩は1例見学)。 各施設において分娩入院があれば、第1期から第4期まで、助産師の助産実践(直接介助)を見学し分娩期の関わりについて理解を深める。 学内カンファレンスにおいて、個人の体験や事例を学生間で共有し、それらを通して新しい知識や技術を学修し、助産学実習Ⅱに向けた自己課題を明確にする。 助産学実習Ⅰで分娩見学を行った後は、そのまま助産学実習Ⅱに移行する。助産学実習Ⅰ評価表をもとに、自己の課題を明確にしておく。									
	実習後										
教科書	既習科目で用いた教科書、参考書などを活用する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	事前:関連する科目を受講し、実習に向けて技術演習を自主的に計画して行う。 事後:実践の振り返りレポートをもとに学びの共有を行う。また、個人面接により実習の到達度および自己の課題を明確にする。										
他の授業との関連	周産期学・女性学特論、新生児学・乳幼児学特論、助産実践概論、助産実践特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、助産実践演習Ⅰ。助産学実習Ⅰと助産学実習Ⅱは連動する。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】フィードバックは、個別面接にて行う。* 実習後、担当教員が個人面接を行い、担当教員全員で最終評価を行う。 【成績評価】実習目標達成度をみる評価表(記録、課題レポートの内容、カンファレンスにおけるプレゼンテーション内容などを評価項目に反映したもの)による素点100点とする(実習評価表参照)。 * 原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	随時、担当教員が対応する。										
備考	学生間、実習指導者、教員との連絡調整を密に行い、臨地での経験が実践に繋がるように充実した実習を行う。 実務経験のある教員:木戸(助産師)、植村(助産師)										

助産学実習Ⅱ (Clinical Midwifery Training Ⅱ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	通年	単位数	5.0	時間数	225	授業形態	実習
担当教員	●木戸 久美子(KIDO Kumiko) 植村 裕子(UEMURA Yuko) 松下 有希子(MATSUSHITA Yukiko)										
授業の目的	マタニティサイクルにある母子とその家族への助産過程について、助産学の基礎となる理論をもとに臨地の場で学ぶ。特に、分娩期にある対象者に的確な助産過程を展開し、対象者にとって満足のいく出産経験が提供できるような助産実践を行う。自律した助産実践に必要な異常徴候の早期発見とアセスメント能力を高めることができるように、ハイリスク妊産褥婦および新生児の病態生理と治療法について実践を通して学修する。また、臨地実習を通して助産のあり方と職業アイデンティティの形成を図る。										
到達目標	①分娩期の経過診断および健康生活診断に基づく助産過程が展開できる。 ②対象の個別性を踏まえた分娩介助(直接介助/間接介助)ができる。 ③分娩介助した対象の産褥期・新生児期の経過診断および健康生活診断に基づく助産過程が展開できる。 ④帝王切開事例を1例受け持ち、経過診断および健康生活診断に基づく助産過程が展開できる。 ⑤ハイリスク/正常からの逸脱の妊産褥婦・新生児の病態生理、検査・治療・看護の実際について説明できる。 ⑥Woman-centered careとFamily-centered careを踏まえた実践ができる。 ⑦周産期医療チームにおける助産師の役割について説明できる。 ⑧自律した助産実践が可能になるための自己の課題を明確にできる。										
授業の進め方	2025年度大学院実践者養成コース(助産学) 実習要項 参照 実習施設: 香川県立中央病院、高松赤十字病院、四国こどもとおとなの医療センター等 学生配置: 各実習施設に数名のグループに分かれて実習を行う。 単位認定にあたっては、正常分娩を10例程度介助していることが必要条件である。 実習期間中に帝王切開事例を1例受け持ちケアを行う。 本実習で分娩介助した対象から継続して児が1歳になるまでを受け持つ(実践者養成コース: 公衆衛生看護学の学生と共同で地域包括ケア実習Ⅰとして受け持つ)。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	実習前	オリエンテーションの実施									
	実習中	<ul style="list-style-type: none"> ・実習開始前にオリエンテーション(学内)を実施し、実習目的・実習目標を、方法を理解する。 【実習内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・正常分娩を10例以上介助する。 ・分娩介助を実施した褥婦と新生児のケアを実施する。 ・帝王切開の産婦を1例受け持ち、手術前日から手術後1日までのケアを実施する。 ・実習期間中に中間カンファレンスを行い、目標の到達度の確認を行う。 ・必要に応じて、実習指導者の同席のもとテーマカンファレンス及び事例検討を行う。 									
	実習後	実習終了後、実習記録・学生の自己評価表を基に教員と振り返りを行う。									
教科書	既習科目で用いた教科書、参考書などを活用する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する										
事前学習・事後学習	事前: 関連する科目(周産期学・女性学特論、新生児学・乳幼児学特論、助産実践概論、助産実践特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、助産実践演習Ⅰ、助産学実習Ⅰ)を受講し、実習に向けた自己学習と技術練習を実習前課題とする。実習前に助産実践能力の客観的評価を行い、チェックリストに沿って実習が可能なレベルに達しているか学生自身の自己評価と教員の他者評価により確認する。 事後: 1例1例の受け持ち事例の振り返りを行い、学びの共有と自己の課題を明確にする。										
他の授業との関連	周産期学女性学特論、新生児学・乳幼児学特論、助産実践概論、助産実践特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、助産実践演習Ⅰ、助産学実習ⅠとⅡは連動する。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】 分娩直接介助は、指導助産師からのフィードバックを受け、次回の分娩介助に活かす。また、実習終了後には、個別面接を行い、実習評価項目の達成度についてフィードバックを行う。 【成績評価】 実習目標達成度をみる評価表(受け持ち記録、課題レポートの内容や、事例検討およびカンファレンスにおけるプレゼンテーション内容などを評価項目に反映したもの)による素点100点とする(実習評価表参照)。分娩直接介助評価表をもとに、10例までの各評価項目が80%以上になることを目指す。 *原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	授業開始時に担当教員が対応できる日時を提示する。										
備考	実習は分娩期のケア実践であるため、夜間もしくは休日等の時間外に及ぶことがあります。実習期間中に分娩介助10例に満たない場合は、予備期間に実習を行う可能性があります。長期間の実習であり、自己の健康管理に留意し、主体的に取り組ましましょう。 実務経験のある教員: 木戸(助産師)、植村(助産師)										

助産学実習Ⅲ (Clinical Midwifery Training Ⅲ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	後期	単位数	3.0	時間数	135	授業形態	実習
担当教員	●植村裕子 (UEMURA Yuko)、木戸久美子 (KIDO Kumiko) 松下 有希子 (MATSUSHITA Yukiko)										
授業の目的	助産院での事例を妊娠期から出産後1か月まで継続して受け持ち、対象とその家族へのセルフケア能力を高める助産実践を学修する。										
到達目標	①助産院での分娩の実際について学び、助産業務ガイドラインに基づいて助産ケアの実際が説明できる。 ②妊娠期から産後1か月まで継続して受け持ち、経過診断および健康生活診断に基づく助産過程が展開できる。 ③受け持ち対象とその家族のセルフケア能力を高める助産ケアが実践できる。										
授業の進め方	2025年度大学院実践者養成コース(助産学) 実習要項 参照 実習施設: ぽっこ助産院 ・ぽっこ助産院での継続事例は、妊娠期から1名を受け持つ(10~12月ごろ分娩予定者)。 妊娠期: 1単位, 分娩期・産褥期: 1.5単位, 2週間健診・1か月健診: 0.5単位										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	実習前	オリエンテーションの実施 ・実習開始前にオリエンテーション(学内)を行い、実習目的・目標、方法を理解する。									
	実習中	実習に対する自己の準備状況を確認させ、実習目標を達成するための行動計画を各自で立案させる。 ・助産院での継続事例は、妊娠36週頃から出産後1か月頃まで受け持つ。 ・事前に情報収集、アセスメント、助産診断、計画を立案し、担当教員の指導を受ける。妊婦健康診査で助産ケア(保健指導を含む)を実践する。妊婦健康診査等の終了後は、得られた情報をアセスメントし、助産診断・計画修正を行い、担当教員の指導を受ける。保健指導案を作成した場合は、担当教員および臨床指導者の助言を受ける。 ・学内全体カンファレンスにおいて、個人の体験や事例を学生間で共有し、それらを通して新しい知識や技術を学習し、自己課題を明確にする機会とする。									
	実習後										
教科書	既習科目で用いた教科書、参考書等を活用する。										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	事前: 関連する科目を受講し、実習に向けて自己学習と技術練習(妊婦健康診査、褥婦・新生児の健康診査、沐浴)を実習前課題とする。継続事例への支援(妊婦健康診査、入院中の保健指導、産後2週間健診、産後1か月健診)の前には教員と面談を行う。 事後: 継続事例への支援(妊婦健康診査、入院中の健康診査・保健指導、産後2週間健診、産後1か月健診)の後には教員と面談を行う。										
他の授業との関連	周産期学・女性学特論、新生児学・乳幼児学特論、助産実践概論、助産実践特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、助産実践演習Ⅰ、助産学実習Ⅰ・Ⅱ										
成績評価方法・基準・フィードバック	実習目標の達成状況を実習評価表(100%)にて評価する。 分娩直接介助は、指導助産師からのフィードバックを受ける。 実習終了後には、個別面接を行い、実習評価項目の達成度についてフィードバックを行う。 最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。 *原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	植村(研究室31) 個別に対応する。以下のメールアドレスに要件を書いて事前に予約をとる。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	学生間、実習指導者、教員との連絡調整を密に行い、臨地での経験が実践に繋がるように充実した実習を行う。 自己の健康管理に留意し、主体的に取り組みましょう。 実務経験のある教員: 植村(助産師)、木戸(助産師)										

助産学実習Ⅳ (Clinical Midwifery Training Ⅳ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	前期	単位数	1.0	時間数	45	授業形態	実習
担当教員	●植村 裕子 (UEMURA Yuko) 、木戸 久美子 (KIDO Kumiko)										
授業の目的	助産管理の基本と助産業務管理を理解し、周産期病棟における助産業務管理の実際を概観し、助産業務に関するマネジメントおよびリスクマネジメントについて学修する。										
到達目標	①助産業務に関するマネジメントおよびリスクマネジメントが説明できる。 ②周産期病棟における助産業務管理が説明できる。 ③助産管理に関する課題を設定し、情報収集・分析により課題を探究できる。 ④探究した課題について、プレゼンテーションできる。 ⑤周産期病棟における助産管理の実際から今後の課題について考察できる。										
授業の進め方	2024年度大学院実践者養成コース(助産学)実習要項 参照 助産管理の講義と連動して学修を深める。 病棟管理・助産所管理については、助産管理の講義で学習した内容をさらに助産管理の現場で、自己の課題に沿って管理の実際を調べ、指導者・管理者からの説明を受ける。 学内で報告会を実施し、個人の体験や学修内容のプレゼンテーション及びディスカッションを行い、学生間で共有する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール		<助産管理実習> ・産科病棟管理(高松赤十字病院)については、自己の課題に沿って管理の実際を調べ、病棟看護師長からの説明を受ける。 ・助産所管理(ぼっこ助産院)については、助産所管理者からの説明を受けて、管理運営の実際について調べる。 <学内報告会> ・自己の課題に沿った各自の助産管理についての学習内容を報告、ディスカッションを行い、学びを共有し学習内容を深める。 <課題レポート> ・報告会での検討後、自己の課題に沿った助産管理におけるマネジメントについて、課題レポートをまとめる。									
教科書	助産管理で使用した教科書										
参考書・参考資料等	適宜紹介する										
事前学習・事後学習	事前学習: ・助産管理の講義を基に、助産管理に関する課題を明確にする。 ・自己の課題に関する情報収集、分析を行い、まとめる。 ・報告会前は、自分の考えを整理し、主体的に討論できるように準備して臨む。プレゼンテーションの資料を作成する。 事後学習: ・周産期病棟および助産所での助産管理の実習後は、助産管理に関する今後の課題を考察する。 ・報告会後は、助産管理における今後の課題について、レポートを作成する。										
他の授業との関連	助産管理の講義と連動して学修を深めます。助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで実習施設の概要は説明している。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【成績評価】形成的評価(80%)：目標の達成度を実習評価表に基づき評価する。 総括的評価(20%)：プレゼンテーションの内容・参加度等を評価する。 【フィードバック】フィードバックは、個別面接にて行う。最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。 *原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	植村(研究室31) 個別に対応する。以下のメールアドレスに要件を書いて事前に予約をとる。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	自己の課題に基づいて実習に臨めるように、助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学びを基盤に、助産管理におけるマネジメントのテーマを明確にする。主体的に実習に取り組めることを期待する。 実務経験のある助産師：植村(助産師)、木戸(助産師)										

地域包括ケア実習 I (Practicum I : Community Based Comprehensive Care)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	通年	単位数	4.0	時間数	180	授業形態	実習
担当教員	●植村 裕子 (UEMURA Yuko) 木戸 久美子 (KIDO Kumiko) 松下 有希子 (MATSUSHITA Yukiko)										
授業の目的	分娩期から産後1年間の母子を継続して受け持ち、地域で生活する母子とその家族の身体的・心理社会的状態を理解し、必要な支援を提供し、継続ケアの意義や必要性について学修する。										
到達目標	①産後1年の母子とその家族の身体的・心理社会的状態が説明できる。 ②定期的に母子とその家族の身体的・心理社会的状態がアセスメントできる。 ③定期的に母子とその家族に必要な支援を計画し、実践できる。 ④母子とその家族に共通する特性や課題を把握し、集団へのアプローチが実践できる。 ⑤母子をとりまく保健・医療・福祉関係者と連携および協働の意義が説明できる。										
授業の進め方	地域で生活する母子とその家族への継続支援を実践者養成コース(公衆衛生看護学・助産学)学生とペアで行う。適宜カンファレンスを実施する。健康教育の企画・運営は学生が主体的に実施する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール		1. オリエンテーション 地域包括ケア実習 I の開始前に実践者養成コース(公衆衛生看護学・助産学)合同でオリエンテーションを実施し、実習目的・目標、方法を理解する。 2. 母子の継続ケア 地域で生活する母子とその家族の継続支援を家庭、健診会場、交流の場等にて実践者養成コース(公衆衛生看護学・助産学)学生とペアで生後1歳を迎える頃まで実施する。 【支援のタイミングの目安】 ①1～2か月頃: 家庭訪問 ②4か月児相談 ③定期的にその後の母子の生活の状況を確認し、必要なアドバイスを行う ④1歳頃: 1歳おめでとう(大学) 【健康教育の企画】 「1歳おめでとう」では、学生が主体的に母子に共通する特性や課題に応じた支援を検討し、健康教育を企画・運営する。 3. 事例検討 個別事例を用いて実践者養成コース(公衆衛生看護学・助産学)合同で事例検討を実施し、保健師と助産師の継続支援における専門性や役割を検討する。 4. 地域包括ケア実習 I での学びの報告									
教科書	助産実践特論 I～IV、周産期学・女性学特論、新生児学・乳幼児特論で使用した教科書										
参考書・参考資料等	適宜紹介する。										
事前学習・事後学習	【事前学習】 ・既習の乳児の成長発達段階、育児期の母子支援について復習する。 ・受け持ち事例が活用可能な地域の保健事業や社会資源について整理をする。 ・受け持ち母子の継続ケアを実践する前は、担当教員へ報告し、指導・助言を受ける。 ・その他、事前学習課題は、別途提示する。 ・事例検討及び最終報告前には、自分の考えを整理し、主体的に討論できるように準備して臨む。 【事後学習】 ・受け持ち母子の継続ケアを実践した後は、担当教員へ報告し、指導・助言を受ける。 ・実習終了後は、個別事例への支援から集団・地域への支援について理解を深め、文献資料も参考にして自身の考えを整理する。										
他の授業との関連	これまで受けたすべての科目および助産学実習 I、II を基盤とする。助産学実習 III で受け持った母子を継続して受け持つ。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【成績評価】 実習評価表にそって、総合的に評価する。 形成評価80%(実習評価表参照)総括評価20%(報告会資料等) 各支援時期における計画や企画、その振り返りをそれぞれの時期に合わせて提出されたものをもとにフィードバックし、事例検討会や最終報告会などで全体的なフィードバックを行う。また、個別面接により学修到達度を個別にフィードバックする。最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。 *原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	植村(研究室31) 個別に対応する。以下のメールアドレスに要件を書いて事前に予約をとる。 uemura@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	実務経験のある教員: 木戸(助産師)、植村(助産師)										

地域包括ケア実習Ⅱ (PracticumⅡ: Community Based Comprehensive Care)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	2.0	時間数	90	授業形態	実習
担当教員	●木戸 久美子(KIDO Kumiko) 植村 裕子(UEMURA Yuko)										
授業の目的	香川県の周産期医療体制や母子保健サービスの提供の実際を概観し、母子のための地域包括ケアの実際について実習を通して学び、多職種連携協働に必要な能力を修得する。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 香川県の周産期医療体制と母子保健サービス提供の現状分析と課題について明確にできる 2. 香川県内での母子のための妊娠期から育児期における切れ目ない支援の実際について理解できる 3. 助産師が保健医療福祉の関係者とともに実践している妊娠期から育児期における切れ目ない支援の実際について理解できる 4. 二次医療圏(小豆圏域)において母子保健上の課題に基づいた助産師の役割について説明できる 5. 保健師を含む専門職や多職種との連携協働の意義が考察できる 										
授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 香川県内の母子保健データ(かがわの母子保健)最新版などをもとに、小豆圏域(島嶼部)の母子保健の現状を分析する。 2. 分析結果をもとに、以下の香川県内の子育て支援拠点施設、小豆圏域(島嶼部)における実習を行う。ただし、連続した2週間実習はせず、4月～6月にかけて、下記の実習先にて開催されているプログラムにグループに分かれて参加する。 <ol style="list-style-type: none"> ①NPO法人子育てネットくすくす子夢の家(普通寺市金蔵寺町1044-2) ②特定非営利活動法人ゆうゆうくらぶ(高松市屋島西町2479-12) ③小豆島中央病院(小豆郡小豆島町池田2060番地1) 3.実習を通して明確にした課題について、学内報告会を行う。 										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール		<p>1週目(オリエンテーション、事前準備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に香川県内での母子のための地域包括ケアの取り組みの実際について理解を深める。 ・香川県の母子保健データ(かがわの母子保健)最新版などをもとに、特定の二次医療圏における母子保健統計などから、母子保健の現状を分析し、2週目からの実習における課題を明確にする。 <p>2週目</p> <p>(県内の特定の地域に分かれて実習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香川県内の妊娠期から子育て期の切れ目ない支援を実践している施設で開催されている様々なプログラムに参加し、困難事例への対応等、母子を中心とした地域包括ケアの取り組みの現状を学ぶ。(島嶼部実習) ・小豆島を訪れ、小豆島町における母子のための妊娠期から育児期における支援の実際がどのように開催されているか、その支援上の課題としてどのようなことがあるかを、臨地の産科医療関係者にインタビューを行う。 ・助産師が行う妊娠期から子育て期における健康教育を見学し、地域連携会議等に参加する。 <p>(総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内報告会として、実習を通して見出した母子保健上の課題について、総括する。 									
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健(医学書院) 最新版 かがわの母子保健										
事前学習・事後学習	事前学習:地域母子保健活動論について復習し、実習目的目標を意識して取り組む 事後学習:母子を中心とした地域包括ケアにおける助産師の役割について考察する										
他の授業との関連	地域母子保健活動論、助産学実習と関連しています。										
成績評価方法・基準・フィードバック	<p>【フィードバック】様々なプログラムの参加時の実習記録に関するフィードバックは、随時、臨地指導者から受ける。最終評価については、フィードバックの期間を設け、希望者に評価内容を説明する。</p> <p>【成績評価方法】実習目標の達成状況を実習評価表(実習記録、参加度、報告会の内容等を含む)にて総合的に評価する。</p> <p>*原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。</p>										
オフィスアワー	質問があれば、事前にアポをとること。 木戸(研究室20) kido-k@kagawa-puhs.ac.jp										
備考	実務経験のある教員:木戸(助産師)、植村(助産師)										

課題研究 I (Research in Midwifery I)											
必修・選択の区別	必修	学年次	1	学期	後期	単位数	4.0	時間数	60	授業形態	演習
担当教員	●木戸久美子(KIDO Kumiko)ほか										
授業の目的	助産実践の改善・向上に貢献する知見を得るために、臨床上の疑問(Clinical question)を研究課題(research question)として明確にでき、研究を遂行する上で重要な倫理的配慮について検討できる能力を修得する。										
到達目標	1.文献検討を通して、助産実践の改善・向上に貢献できる研究課題が記述できる。 2. その研究課題を解明するための適切な方法を選定できる。 3. 研究を遂行する上で必要な倫理的配慮について記述できる。 4. 上記のすべてをまとめた研究計画書が作成できる。 5. 倫理審査を受けるための申請書を作成できる。										
授業の進め方	指導教員とディスカッションを重ねながら自らの研究課題を明確にしていく。 ガイダンスについては、前期に実施、指導教員と定期的に面談して研究テーマを明確にする。 詳細については、大学院ガイドを参照すること。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～30	助産学研究に相応しい研究課題の明確化 研究計画書作成 * 研究計画の審査(研究計画発表会) 研究計画発表会后、研究計画書の加筆修正 研究倫理委員会の審査									
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	適宜、参考図書や文献を提示する。										
事前学習・事後学習	自らの研究を遂行する上で必要となることを学習する。										
他の授業との関連	看護理論,質的看護研究方法論,量的看護研究方法論,ウイメンズヘルス看護学特論・演習を基盤とした科目である。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】 各授業で学生から提出された記事に対するフィードバックは速やかに行う。 【成績評価・基準】 授業の目標達成状況をみるルーブリック評価表をもとに形成評価(40%)と総括評価(提出された研究計画書)60%から、総合的に評価する。 * 原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	授業開始時に担当教員が対応できる日時を提示する。										
備考	実務経験のある教員: 木戸(助産師)										

課題研究Ⅱ (Research in MidwiferyⅡ)											
必修・選択の区別	必修	学年次	2	学期	通年	単位数	6.0	時間数	90	授業形態	演習
担当教員	●木戸久美子(KIDO Kumiko)ほか										
授業の目的	助産実践の改善・向上に貢献する知見を得るための研究課題に取り組み、その成果を学術論文としてまとめ公表できる能力を修得する。										
到達目標	1.課題研究Ⅰで作成した研究計画に則り、研究(介入)を行う。 2.得られたデータを適切な方法で分析できる。 3.分析結果を考察できる。 4.一連の研究成果を論文としてまとめる発表することができる。 5.研究成果を助産実践に取り入れる方法を考察できる。										
授業の進め方	担当教員とディスカッションを重ねながら自らの研究課題を遂行する。										
	回	内容・教員・形式等									
授業スケジュール	1～45	研究実施(データ収集・分析) 論文作成 発表・修正 論文提出									
教科書	特に指定しない。										
参考書・参考資料等	適宜、参考図書や文献を提示する。										
事前学習・事後学習	自らの研究を遂行する上で必要となることを学習する。										
他の授業との関連	看護理論,質的看護研究方法論,量的看護研究方法論,ウイメンズヘルス看護学特論・演習を基盤とした科目である。										
成績評価方法・基準・フィードバック	【フィードバック】各授業で学生から提出された記事に対するフィードバックは速やかに行う。 【成績評価・基準】授業の目標達成状況をみるルーブリック評価表をもとに形成評価(40%)と総括評価(提出された課題研究論文の評価)60%から、総合的に評価する。 学位授与の基準および課題研究論文(修士論文)評価は、別途提示するルーブリック評価表をもとに行う。 *原則として総授業数の5分の4以上の出席がなければ、評価を受けられません。										
オフィスアワー	授業開始時に担当教員が対応できる日時を提示する。										
備考	実務経験のある教員:木戸(助産師)										